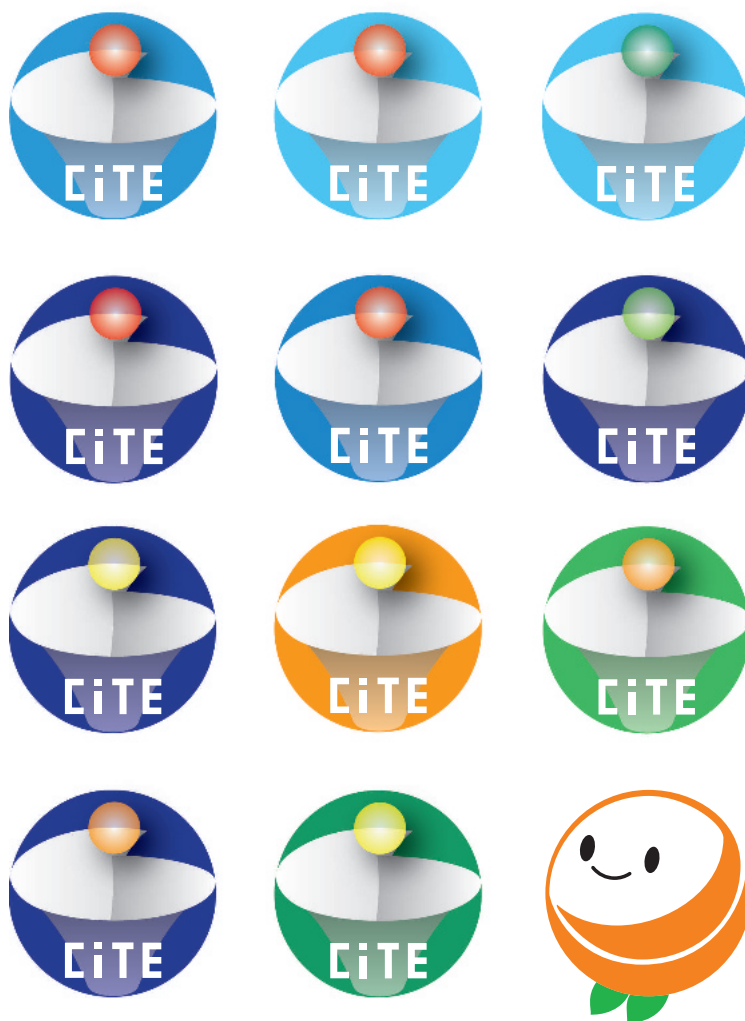


ANNUAL Report

年報 2013



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university

CITE



総合情報メディアセンターからの メッセージ

総合情報メディアセンター長

大橋 裕一

今年も総合情報メディアセンター（CITE：Center for Information Technology, Ehime University）からの年報をお届けします。平成15年4月に発足した本センターは、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの幅広い活動を通じて、愛媛大学の情報基盤を支えています。

平成23年4月からは先端研究・学術推進機構に所属するようになり、学生教育や研究活動をはじめとする教職員の円滑な業務遂行のために、情報基盤の改善、維持に携わっています。昨年度は、認証基盤システムとクラウドメールを導入し、平成26年4月からクラウドメール（Office365）の利用を開始しました。

情報基盤システムについては、次期システムの導入業者も決まり、平成26年9月稼働に向けて準備を進めています。また、今回のシステムから、附属学校の教育用PCもシステムに含めることとなり、メディアセンターとしてサポートする範囲が広がりました。

一方で、平成25年度に設置された教育デザイン室を中心に、e-Learningを核とした新しい教育スタイルの普及に向け、積極的に取り組んでいます。特に、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業及び大学間連携共同教育推進事業により支援を受けているe-Learningに関する先進的取組を推進しています。また、学内における無線LAN環境の整備も昨年度完了し、e-Learning実施のためのインフラ環境も整っています。

総合情報メディアセンターが行っているこれら様々な取り組みについて、皆さま方の温かいご支援とご理解をよろしくお願い申し上げます。

センター長あいさつ

1. 部門概要・業績

(1)部門教職員	1
(2)部門概要	2
(3)教員活動実績	8

2. 教育研究実績

(1)研究活動	15
(2)学会発表等	22

3. 教育活動及び教育支援

(1)教育活動	23
(2)教育支援	26

4. 研究活動及び研究支援

(1)研究成果	27
---------------	----

5. 業務関連

(1)沿 革	33
(2)情報基盤システム	33
(3)事業実績	38
(4)利用状況	39
(5)センターイベント	42
(6)各種委員会	43
(7)センター規則	46

(1) 部門教職員(2014年3月現在)

【センター長(兼)】

教 授：大橋 裕一

【情報基盤部門】

教 授：川原 稔

准 教 授：阿萬 裕久

助 教(兼)：佐々木隆志

【情報メディア教育部門】

教 授(兼)：田中 寿郎

准 教 授：和田 武

講 師：仲道 雅輝

【学術情報システム部門】

教 授：中川 祐治

教 授：野口 一人

【その他】

特定研究員：都築 和宏

教育支援者：菊川 佳代

【総合情報メディアセンター事務課】

課 長

石田 昭夫

総務チーム

チームリーダー：村上 泰彦 事務補佐員：梶村 千穂 事務補佐員：白石 瞳

電子情報チーム

チームリーダー：近藤由香里 サブリーダー：瀧本 笑子 技術員：池住 元秀

技術員：吉田あきえ 技術補佐員：三神 早耶 技術補佐員：陣内 恭子 事務補佐員：村上 鋼次

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣 技術員：増田 隆司

技術専門職員(樽味)：伊藤 信房 技術専門職員(重信)：中村 勝

(2) 部門概要

【情報基盤部門 (Division of Network and Computing)】

愛媛大学における情報システム及び情報ネットワークの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度な情報通信技術及び情報セキュリティ技術の導入・運用管理、情報セキュリティポリシーの確立・運用管理等、高速・高信頼ネットワークシステム及び情報システムを構築することをその目標としている。

平成25年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

総合情報メディアセンター事務課と共同して、情報基盤システムの安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは情報基盤システム保守定例会を開催し、情報ネットワーク及び情報システム（サーバ群、パソコン端末群）の障害対応や改善について指導的役割を果たした。業者だけでは対応不可能な問題に関しては、情報基盤システム保守定例会の機会以外にも随時技術的指導等を行い、愛媛大学の情報基盤として相応しい安定的な運用を行えるよう対策を講じ続けている。

2) 総合情報メディアセンター第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第2部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報資源、及び、情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報資源・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項について必要に応じて教員コア会議・センター会議への審議送り、及び、学長や役員会との調整作業を行っている。平成25年度の部会は、第1回：5月14日、第2回：6月11日、第3回：7月2日、第4回：8月6日、第5回：9月10日、第6回：10月1日、第7回：11月12日、第8回：12月17日、第9回：1月14日、第10回：2月12日、第11回：3月11日に開催した。政府調達を含めた調達案件の方針決定や仕様策定も審議事項に含まれ、更に、愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ専門委員会的な役割も果たした。

3) 愛媛大学情報セキュリティセミナーの開催

情報通信技術は導入しただけで終わりという訳ではなく、常に情報セキュリティに注意を払う必要があり、場合によっては、情報セキュリティの面から導入した情報システム等の更新を考える必要もあるため、平成25年9月24日(火)に教職員を対象にした「情報セキュリティセミナー」を開催した。名古屋大学情報基盤センター教授高倉弘喜氏から「情報セキュリティを考慮したシステムライフタイム設計」についてシステム構築及び運用管理において考慮すべき点について解説があり、引き続き、本学総務部総務課から「本学における個人情報保護の取組」について、説明が行われた。

4) 愛媛大学無線ネットワークの整備

平成25年6月11日に愛媛大学無線ネットワークの構築が完了し、翌12日より運用を開始した。同無線ネットワークは愛媛大学内の、講義室及び教室の全域をサポートエリアとしてカバーしており、更に、学外者が自由に立ち入りできるエリアであるパブリックスペースについても全域で使用可能な環境となった。通信方式はIEEE802.11a/b/g/nを採用しており、情報セキュリティにはIEEE802.1Xを採用して、高速・安定かつ安全な無線ネットワークとなっている。同時利用は、情報通信機器の発達による利用増を勘案して2万人を想定しており、それに耐えられるだけの設備を供給している。運営形態としては商用無線LANとの相乗り方式を採用しており、増設及び運用費用を低く抑えることができ、役務（工事依頼）でエリアの拡大を行える制度としているため、平成25年度末には工学部と教育学部で更に独自のエリア拡張が行われた。今後もエリア拡張が容易にできる無線ネットワークとして発展していく見込みである。

5) データセンターインターコネクットの整備

愛媛大学は、主要なキャンパスが城北、重信、樽味、持田に分散しており、情報ネットワーク及び情報システムの高速度・安定化が急務とされていた。平成24年に行ったキャンパス間ネットワークの整備を受けて、同整備により

導入したCWDMの機能を用いて、データセンターを中心に各4キャンパスを20Gbps回線（10Gbps回線×2）で接続して、これまでの20倍以上の高速性及び低遅延のキャンパス間ネットワークを構築した。さらに、城北キャンパス～重信キャンパス間では、国内初のCWDM上のファイバーチャネル構築を行い、専用の10Gbpsネットワーク回線構築と併せて、城北キャンパスと重信キャンパスを一体化したデータセンターインターコネクト環境をさらに増強した。これにより、城北キャンパスと重信キャンパスの情報システムを一体構成とすることができて負荷分散と障害対応が可能となるため、安定稼働させることができると共に、地理的に離れていることから事業継続計画（BCP）にも対応できることとなった。

6) 学習管理システムの整備

情報基盤システムの一部として運用を行っていた学習管理システムMoodleを以前のように情報システムとして独立させて、Moodleの運用管理を得意とする業者への委託形態とした運用を平成25年5月に開始した。平成25年度後学期からは現在の情報基盤システムのものから切り替えて本格的運用を行っている。当該システムは、上述のデータセンターインターコネクトを基盤とした、安定かつ高性能なシステム構成となっており、検証実験では500名の同時利用でも相当な余裕を示しており、将来のeラーニング拡大に十分に対応可能な状態となった。本システムは、後述の認証基盤システムと連動して、愛媛大学アカウントによるシングルサインオン対応となっている。

7) 認証基盤システムの整備

これまでに統合認証システムを導入して、教職員に対する認証サービスを提供してきた。これに対し、学生に関しては、古くから認証システムを包含していた本学情報基盤システムのことを流用する形で、各種の情報システムが構築されてきた経緯がある。現在では、教職員と学生を含む本学全体構成員に対して、これらの認証システムを統合してアクセスさせる仕組みを構築して認証サービスを行っているが、昨今の情報ネットワーク及び情報システムの規模拡大と連携サービスの多様化に柔軟に対応できる認証基盤システムが必要となってきた。そこで、既存の統合認証システムの教職員認証情報と情報基盤システムの学生認証情報を愛媛大学アカウントとして統合し、認証サービスに必須の機能を拡充する方法で認証基盤システムを構築した。本システムの構築により、愛媛大学でのシングルサインオン環境が整備され、認証に対する柔軟なサービス提供と情報セキュリティ強化を行うことができるようになった。

8) 愛媛大学クラウドメールサービス導入

電子メールの利用について、教職員用には平成22年導入のメールシステム、学生用には情報基盤システムを用いている。これらのメールシステムの更新に伴い、メールサービス継続性の向上、付加サービスの提供、費用の効率化の観点から、学生と教職員のメールシステムを統合し、クラウドメールサービスであるマイクロソフト社Office 365を導入することとし、平成26年4月から本運用を開始している。本システムは、上述の認証基盤システムと連動することにより、シングルサインオンで利用可能なシステムとして稼働させられるようになっている。

9) 情報基盤システムの更新

情報基盤システムの更新に伴い、仕様策定委員会の立ち上げ、仕様策定、資料招請、意見招請、政府調達、技術審査、契約の各作業を行った。新システムでは、上記のデータセンターインターコネクトの強化による仮想化環境の増強・安定稼働を更に押し進め、情報ネットワークの高性能・高機能化と新技術を持つ情報セキュリティ機能整備、教育用PCの高性能・高品質化を行う予定である。

【情報メディア教育部門（Division of Multimedia Education）】

情報メディア教育部門は、高度情報化技術を活用した情報リテラシー教育及び各種のマルチメディア教育のシステム開発を研究し、実践方法の検討を行うこと、さらに、愛媛大学の情報リテラシー教育を企画・立案するとともに実施方法の検討を行うことをその目標としている。

平成25年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 教育デザイン室の設置

ICTを活用した授業構成の見直し、コンテンツ制作のサポート、講義などの撮影、eラーニングの運用サポートなど、ICTを活用した教育展開を支援していく第一段階として体制を整備した。平成25年4月1日に教育デザイン室が設置された。

2) eラーニングコンテンツの制作実績

正課授業で利用するコンテンツや教職員向けのコンテンツなど、30コンテンツ（計71講分）の制作を行った。平成25年度制作したコンテンツの一覧は下表のとおりである。

No.	科 目	備 考
1	安全衛生教育教材【農学部】	1講／全1講
2	安全衛生（社会力入門）【共通教育】	3講／全3講（3章構成）
3	日本語リテラシー入門【共通教育】	4講／全4講
4	食育教材【共通教育】	8講／全8講
5	英語ヒアリング教材【共通教育】	1講／全1講（3章構成）
6	社会力入門【共通教育】	5講／全5講
7	フランス語Ⅰ（会話編）【共通教育】	13講／全13講
8	フランス語Ⅰ（文法編）【共通教育】	9講／全9講
9	生物資源科学実習【農学部】	1講／全1講
10	放射線と人体影響【医学部】	1章／全3章
11	紛争と裁判Ⅰ【法文学部】	1講／全1講
12	リーダーシップ・チャレンジ in ハワイ 開発編【教育企画室】	1講／全1講
13	ELS大洲合宿【教育企画室】	1講／全1講
14	SPODフォーラム2013【教育企画室】	1講／全1講
15	学生への振り返り指導ティップス～学生の自発的な気付きと効果的な成長を促すために～【教育企画室】	1講／全1講
16	授業デザインワークショップ【教育企画室】	1講／全1講
17	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾【教育企画室】	1講／全1講
18	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン【教育企画室】	1講／全1講
19	アカデミックプレゼンテーション（PowerPoint編）【教育企画室】	1講／全1講
20	統計ソフト（Access）利用法【テニユア・トラック】	1講／全1講
21	eラーニング入門【テニユア・トラック】	1講／全1講
22	大人教養法の基本【テニユア・トラック】	1講／全1講
23	学習評価の基本【テニユア・トラック】	1講／全1講
24	障がい学生支援入門【テニユア・トラック】	4講／全4講
25	科学技術コミュニケーション論【テニユア・トラック】	1講／全1講
26	INCS利用法	1講／全1講
27	高等教育政策論【テニユア・トラック】	1講／全1講
28	高等教育戦略論【テニユア・トラック】	1講／全1講
29	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法【テニユア・トラック】	1講／全1講
30	シラバスの書き方【テニユア・トラック】	1講／全1講

3) 修学支援システムとの連携

- ・シラバス登録・修正期間中のボタンワンクリックでのMoodleコース申請
- ・履修登録された学生のMoodleコースへの自動一括登録
- ・Moodle 2の改修（CSVによるコース一括登録、オンラインテキスト課題の個別評定画面の解答全文表示、オンラインテキスト課題の語数及び文字数表示、クイックメールの機能活用）
- ・修学支援システムとMoodleとのメールアドレスの連携（平成26年度継続）

4) 共通教育TA・SA研修として「情報リテラシー入門TA・SA研修」を実施（平成25年4月9日(火)16:10～17:20）

- ・TAとSAの役割について
- ・センター機器の操作について
- ・eラーニングシステムの利用について
- ・TAとSAの業務確認ならびにマネージメントについて

1. 部門概要・業績

(2) 部門概要

- 5) eラーニングシステム上に情報リテラシー教員・TA・SA専用コンテンツを作成し、TA・SA業務内容の周知・徹底を図るとともに、毎回の業務報告を提出する場として活用する。
- 6) 共通教育科目「情報リテラシー入門」を、習熟度別クラス編成による全学共通シラバスのもとでeラーニングによる共通コンテンツを活用した授業として実施。
 担当：オンライン習熟度別振り分け試験、習熟度別クラス振り分け、オンライン確認テスト、オンライン模擬テスト、オンライン期末テストを実施する。
- 7) 総合情報メディアセンター第3部会「eラーニング推進部会」に於いてeラーニング推進について種々の検討を行った。開催日程及び審議・報告事項等は下表のとおりである。

回	日 時	審 議 事 項 等
第 1 回	平成25年 5 月10日(金)	第 3 部会「eラーニング推進部会」委員について 平成25年度 eラーニング推進部会事業計画（案）について 平成25年度課題スケジュール（案）について ICT利用状況アンケートの実施について 修学支援システムの改修について Moodleの利用状況について 「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」 シンポジウムについて
第 2 回	平成25年 6 月14日(金)	ICT利用状況アンケートの実施について Moodleコースへのログイン画面について Moodleコース申請に関する説明ページについて 新規導入のMoodle2.3について Moodleオンライン転出課題の文字カウントについて 問い合わせリストのQ&A化について eラーニングコンテンツ取扱要領等について 修学支援システムの改修について 平成25年度コンテンツ開発計画 eラーニングコンテンツ制作・運営に関するアンケートについて 「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」 設備備品等の調達スケジュールについて eラーニングニュースVol.4の発行について
第 3 回	平成25年 7 月26日(金)	新規導入のMoodle 2 のデザインについて Moodleオンライン提出課題の文字カウントについて Moodleコースの運用について eラーニングコンテンツ取扱要領等について 平成25年度コンテンツ開発計画 大学 eラーニング協議会2013年度全体ミーティング開催について eラーニングニュースVol.5の発行について
第 4 回	平成25年10月31日(木)	平成25年度課題スケジュールの進捗状況及び中間報告に向けて Moodleコースへの学生の一括登録について 「日本語リテラシー入門」科目の開講について MCGMovieCommonsシステム障害について eラーニングコンテンツ取扱要領等について ICT利用状況アンケート結果について Moodleコース利用状況について ICT研修会の開催について 「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」 設備備品等の調達スケジュールについて
第 5 回	平成25年12月 5 日(木)	課題スケジュールの進捗状況中間報告 Moodleコースへの学生の一括登録について Moodle閲覧時の使用デバイス等について リフレッシュコーナーPC利用状況について ICT研修会の開催について 学術認証フェデレーションの開放について 修学支援システムとMoodleとのメールアドレスの連携について

第6回	平成26年1月30日(木)	課題スケジュールの進捗状況について Moodleオンラインテキスト課題の一括ダウンロードについて 修学支援システムとMoodleとのメールアドレスの連携について Moodle 2 コース内でのセクション異動について 学術認証フェデレーションのSP化について Moodleコースへの学生の一括登録について Moodle動画視聴に関する調査報告等について ICT研修会の開催について 日本語リテラシー入門のアンケート結果（前半）について 会議のペーパーレス化について
第7回	平成26年3月19日(木)	課題スケジュール最終報告 平成26年度 eラーニング推進部会員について コンテンツ開発の受付について 修学支援システムとMoodleとのメールアドレスの連携について 愛媛大学Moodle 2 の学認SPについて Moodleオンラインテキスト課題の一括ダウンロードについて Moodleのバージョンアップについて 日本語リテラシー入門のアンケート結果について

- 8) 著作権戦略検討部に委員（仲道雅輝）として参加し、愛媛大学の著作権戦略について検討を行った。
- 9) 教育・学生支援機構主催の「FDスキルアップ講座」及び「テニユア・トラック研修」の講師として6講座合計7回を実施した。
 - ・「効果的なeラーニングの活用方法」（仲道雅輝，平成25年9月17日）
 - ・「eラーニング入門」（仲道雅輝・佐々木隆志・瀧本笑子，平成25年9月20日，24日）
 - ・「学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門」（仲道雅輝，平成25年9月6日）
 - ・「アカデミックプレゼンテーション PowerPoint編」（仲道雅輝・瀧本笑子，平成25年8月26日）
 - ・「アカデミックプレゼンテーション 動画作成編」（仲道雅輝・池住元秀・瀧本笑子，平成25年8月27日）
 - ・「統計ソフト（Access）利用法」（仲道雅輝・瀧本笑子，平成25年12月10日～11日）
- 10) 日本語リテラシー入門科目の教員・TA・SA向けMoodle利用説明会を9月17日～27日にかけて、合計5回開催した。
- 11) 「Moodle利用説明会」を平成25年9月18日，平成26年3月25日に実施した。（担当：仲道雅輝，佐々木隆志，瀧本笑子）
- 12) Moodle利用数の推移（平成25年～平成23年度）

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
コース数	569	410	349
利用教員数（実数）	177名	123名	93名
学生数（累計）	25,331名	21,279名	17,785名

【学術情報システム部門（Division of Information System）】

学術情報システム部門は、学内ネットワークを含めた情報システムの安全かつ効率的な運用を行うための研究開発及び学内の先端的な研究センターへのデータベース構築、情報発信面での研究協力・支援を行う。

平成25年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 総合情報メディアセンター第1部会

クラウドメールの導入に当たって、導入システムの検討を6回の会議を通して決定した。システムの決定に当たっては金額の他、利用者の利便性や安全性、本学執行部門の意向を考慮して行った。部会での決定を受けて、センター会議及び学術研究会議に議題として提案し決定した。

2) e-まつやま最先端情報技術研究会における研究及び人材育成

2008年に、愛媛大学・松山市・松山法人会及び松山商工会議所による合同研究会「e-まつやま最先端情報技術研究会」が発足し6年目を迎えた。本研究会は、先進的な情報通信技術全般について調査・研究等を行い、その有効性等を検証するとともに、地域の人材育成や地域産業の活性化を図ることを目的として設立された。平成25年度は、Tizen端末での開発を目標にHTML5でのシステム構築を目指していたが、Tizenの発表が遅れ機材を調達することが出来なかった。しかし、人材育成面では、数学科3年生の数学セミナーⅡでHTML5を取り上げ、インタラクティブなアプリケーションの開発を行うことが出来た。また、以下のイベントに出展した。

・6月14日から15日の二日間にわたって「えひめITフェア2013」に出展し、昨年度構築したマーカによる物体同定システムの展示と内容説明を行った。

3) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より7名の学生（学部生及び大学院生）を選抜し、7月30日に愛媛県警本部において委嘱式が執り行われた。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集にあたった。

4) 松山大学との連携事業

「サイバーパトローラーの交流と情報技術力向上」と題して、平成24年度から2年計画で事業を実施した。平成22年度より愛媛県警察本部から、愛媛大学と松山大学の学生10名に「愛媛県警察サイバーパトローラー」の委嘱が行われている。学生たちは県警サイバー犯罪対策室の指導を受けながら、サイバー犯罪の可能性のある情報を収集・提供しているが、ここ数年のサイバー犯罪は高度な情報技術を背景に組織化されて来っており、最先端の情報技術を学ぶ必要性に迫られていた。そこで、当該連携事業では、まず両大学間のサイバーパトローラーの交流を行い、情報交換やモチベーションの維持を図ると共に、セキュリティ関連企業の研究所を訪問し、実際のサイバー犯罪の手口やその背景となる技術について学ぶ機会を設けた。具体的には、6月22日に日本セキュリティ・マネジメント学会の全国大会、9月13日に情報処理学会・情報セキュリティ研究会、10月17～18日に電子情報通信学会・情報ネットワーク研究会、11月14～15日に電子情報通信学会・情報通信マネジメント研究会、11月28～29日に電子情報通信学会・情報セキュリティ研究会、12月14～15日に電子情報通信学会・技術と社会・倫理研究会等に参加し情報収集及び質疑を行った。

2月6日に愛媛県警察本部より、サイバーパトローラーの委嘱を受けている学生がサイバーパトロールの実施により、立件された事案に対して感謝状を送られた。

5) 環境ESD指導者養成講座への協力

2月1日(土)9:00から17:00まで「環境ESD指導者養成講座Ⅰ」において『野外活動における安全管理』について講義と実習を行った。この養成講座では、海・山・里での野外実習が行われるため、これらの中で特に注意を要する海・川・山のフィールドに特有の危険について講義とグループワークを行った。さらに指導者としての安全管理を実体験するために、実際に校内のフィールドに出向き、グループごとにネイチャーゲームを実施することで、危険予知訓練を徹底的に行った。

6) 「キャンパスIT体験会2013」の実施

9月11日(水)13:00から16:00に総合情報メディアセンターにおいて、附属高校の「産業科学基礎」の授業として「キャンパスIT体験会2013」を実施した。講義は「映像編集にチャレンジ」(担当：中川)、「パソコンでグラフを描こう」(担当：野口)の2つを担当した。

(3) 教員活動実績



中川 祐治

NAKAGAWA Yuji

生年月日：1957年12月14日

職 歴：●(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研

究部研究員 (1986年4月～1989年12月)

●鹿児島大学助教授(1990年1月～1990年3月)

●鹿児島大学情報処理センター主任/助教授

(1990年4月～1993年3月)

●国際基督教大学助教授

(1993年4月～1995年3月)

●国際基督教大学準教授

(1995年4月～1996年6月)

●愛媛大学教授 (1996年7月)

学 歴：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了

学 位：1986年理学博士 (東京都立大学)

免許・資格：●(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネ
イチャーゲームリーダー」(1999年8月)●NPO法人自然体験活動推進協議会認定「自
然体験活動リーダー」(2003年4月)所 属 学 会：人工知能学会，情報処理学会，電子情報通信学
会，日本データベース学会，ACM，コンピュ
ータ利用教育協議会，高エネルギー物理学研究
者会議，日本環境教育学会，日本環境教育フォ
ーラム

専 門 分 野：情報認識学，高エネルギー物理学，環境教育

研 究 課 題：画像認識・理解の研究，遠隔教育システムの研
究，環境教育と情報認識学の融合

部局内貢献：●共通教育センター第8部会 (2006年10月～)

●総合情報メディアセンター会議委員
(2011年4月～)

●学術研究委員会委員 (2011年6月～)

●業務継続計画策定ワーキンググループ
(2011年11月～)

学外審議会・委員会活動：

●愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問
(2007年12月～)●九州大学情報基盤研究開発センター全国共同
利用運営委員会委員 (2011年4月～)●戦略的基盤技術高度化支援事業研究開発推進
委員会委員 (2013年10月～)

調査・研究会等への貢献：

●愛媛大学社会連携推進機構研究協力会「e-
Learning研究部会」代表 (2007年7月～)●e-まつやま最先端情報技術研究会理事 (2008
年4月～)●戦略的基盤技術高度化支援事業研究開発推進
委員会委員 (2013年10月～)講 演 実 績：●「映像編集にチャレンジ」，キャンパスIT体
験会2013，愛媛県 (2013年9月)

地域啓発活動・教育機関支援活動：

●愛媛県シェアリングネイチャー協会理事及び
事務局長 (2005年4月～)

ボランティア活動：

●愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェ
アリングネイチャーの会運営委員長
(2007年1月～)



野口 一人
NOGUCHI Kazuto

職名：教授
電話：089-927-8802
FAX：089-927-8805
E-mail：noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

職歴：●日本電信電話株式会社フォトニクス研究所・他勤務（1986年4月～2011年6月）
●愛媛大学教授（2011年7月）

学歴：早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了

学位：2001年博士（工学）（早稲田大学）

免許・資格：レーザー機器取扱技術者（第1種）、第一種衛生管理者

所属学会：電子情報通信学会、応用物理学会、IEEE

専門分野：光デバイス、光波長多重通信、情報ネットワーク

研究課題：光・情報ネットワークの低消費電力化、ICTを活用した遠隔医療システム

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年7月～）

- 情報資源・セキュリティ管理部会委員（2011年7月～）
- 安全衛生管理委任者（2013年1月～）

調査・研究会等への貢献：

- 大学プログラミングオープンチャレンジ（EPOCH@まつやま）実行委員（2011年）
- 第73回応用物理学会学術講演会現地実行委員（2012年9月）
- 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会現地世話人（2012年12月）
- 電子情報通信学会光通信システム研究会現地世話人（2013年1月）
- 日本胎児心臓病学会日本胎児遠隔医療研究会幹事（2013年2月～）
- えひめITフェア2013（2013年6月）
- 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ研究会現地世話人（2013年12月）



川原 稔
KAWAHARA Minoru

職名：教授
電話：089-907-6700
FAX：089-927-8805
E-mail：kawahara@cite.ehime-u.ac.jp

職歴：京都大学助手（1990年4月～2004年2月）

学歴：京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了

学位：2003年博士（情報学）（京都大学）

所属学会：電子情報通信学会、情報処理学会、ヒューマンインタフェース学会

専門分野：計算機システム・ネットワーク、知能情報学、教育工学、リハビリテーション科学・福祉工学

研究課題：●オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分散システムに関する研究
●アドホックネットワークにおける情報ネットワーク新技術開発に関する研究

- データマイニングを用いた大規模情報検索に関する研究
- 学習管理システムにおける学習行動パターン導出による学習効果解析に関する研究
- 視覚情報保障の基盤となる情報通信技術に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年4月～）

- 第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）部会長（2011年7月～）
- 情報基盤システム保守定例会議長（2011年4月～）
- 愛媛大学キャンパス内の公衆無線LAN環境整備仕様策定委員会委員長（2012年度）
- 愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー（2012年9月～）

学外審議会・委員会貢献：

- 電子情報通信学会コミュニケーションクオリ

ティ研究専門委員会専門委員
(2007年4月～)

地域啓発活動・教育機関支援活動：

- Open WiMAX研究会幹事 (2009年2月～)



和田 武

WADA Takeshi

生年月日：1950年8月12日

職名：准教授

電話：089-927-8801

FAX：089-927-8805

E-mail：wada@cite.ehime-u.ac.jp

学 歴：広島工業大学工学部電子工学科卒業

学 位：1995年6月博士（医学）（愛媛大学）

免許・資格：●安全衛生管理者

- 防火管理者

- 統計士

所属学会：情報処理学会，日本教育情報学会，コンピュータ利用教育学会

専門分野：教育工学，情報教育，e-Learning

研究課題：●インターネット俳句サーバの運用に関する研究

- 教育情報の利活用に関する研究

- テスト理論に関する研究

- データマイニングに関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員
(2011年4月～)

- 化学物質管理システム運用分科会委員
(2003年12月～)

- 共通教育情報リテラシー入門チーム委員
(2012年4月～)

- 安全衛生管理委任者（～2013年1月）

- eラーニングコンテンツ制作システム仕様策
定委員（2013年6月～7月，計4回）

- 図書館システム技術審査委員

(2014年3月，計3回)

学外審議会・委員会活動：

- 愛媛県文化振興財団・芸術文化支援事業選定
委員会委員（～2014年3月）

- 総合情報メディアセンター第3部会「eラー
ニング推進部会」(2012年4月～)



阿萬 裕久

AMAN Hirohisa

生年月日：1973年8月8日

職名：准教授

電話：089-927-8981

FAX：089-927-8805

E-mail：aman@ehime-u.ac.jp

職 歴：●愛媛大学工学部助手

(2001年4月～2005年3月)

- 愛媛大学工学部特任講師

(2005年4月～2006年3月)

- 愛媛大学大学院理工学研究科特任講師

(2006年4月～2007年3月)

- 愛媛大学大学院理工学研究科講師

(2007年4月～2013年9月)

- 愛媛大学総合情報メディアセンター准教授

(2013年10月～)

学 歴：九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修
了

学 位：2001年博士（工学）（九州工業大学）

免許・資格：第一種衛生管理者

所属学会：情報処理学会，電子情報通信学会，日本ソフト
ウェア科学会，日本知能情報ファジィ学会，米
国電気電子学会（IEEE）

専門分野：ソフトウェア工学

研究課題：●ソフトウェア品質に関する定量的尺度の研究

- ソフトウェアの効率的な品質向上に向けた数
理モデルの活用に関する研究

- ソフトウェア開発活動に対する品質マネジメ
ントの実践に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員

(2013年10月～)

- 第2部会（情報資源・セキュリティ管理部）委員（2011年7月～）
- 情報セキュリティ専門委員会委員（2014年4月～）

学外審議会・委員会活動：

- 日本ソフトウェア科学会学会誌編集委員（2013年4月～）
- 電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会専門委員（2003年5月～）
- 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会専門委員（2008年5月～）
- 情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員（2006年5月～）
- 日本ソフトウェア科学会ソフトウェア工学の

基礎ワークショップFOSE 2014プログラム委員

- The 12th International Conference on Software Engineering Research, Management and Applications, Program Committee Member

地域啓発活動・教育機関支援活動：

- 国立情報学研究所トップエスイー講師（2008年4月～）
- 四国医療技術専門学校非常勤講師（2006年10月～）

講演実績：招待講演「ソフトウェアメトリクスとその関連分野の研究動向について」（電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会, 2013年11月1日）



仲道 雅輝
NAKAMICHI Masaki

生年月日：1971年5月8日

職名：講師

電話：089-927-8800

FAX：089-927-8805

E-mail：nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

- 職歴：
- 学校法人日本福祉大学 事務職員（1995年4月～2011年9月）
 - 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室助教（2011年10月）
 - 愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育・学生支援機構教育企画室 助教（2012年7月）
 - 愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育・学生支援機構教育企画室 講師（2013年12月）
- 学歴：
- 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業（1995年3月）
 - 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻修士課程修了（2009年3月）
- 学位：
- 1995年学士（社会福祉学）（日本福祉大学）
 - 2009年修士（教授システム学）（熊本大学）
- 免許・資格：
- eLC認定e-Learning Professional資格（2009年）

・ e-learning マネージャー

・ ラーニングデザイナー

・ e-learning エキスパート

・ e-learning コンサルタント

・ コンテンツクリエイター

- 中学校社会科1種免許状（1995年）

- 高等学校教諭1種免許状（公民）（1995年）

- 養護教諭1種免許状（1995年）

- 図書館司書資格（1999年）

- 日本スノーボード協会（JSBA）1級（1996年）

- 中型自動車運転免許（2011年）

所属学会：日本教育工学会，教育システム情報学会，日本教育メディア学会，大学教育学会，大学行政管理学会，日本リメディアル教育学会，日本カッオ学会

専門分野：教授システム学，インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計），教育工学，e-learning，FD・SD

- 研究課題：
- インストラクショナル・デザイン（ID）手法を活用した，効果的な授業方法（ICTを活用した授業改善・授業コンサルテーション）に関する研究
 - 高等教育機関における全学的なe-learning推

進に関わる研究

- FD・SD活動の普及要因に関わる研究
- 学生能力開発における成長過程に関わる研究
- 組織開発・組織変革に関わる研究

部局内貢献：●eラーニング推進部会長

- 教育デザイン室長（事業実施責任者）
- eラーニング推進専門委員会委員
- 学修ポートフォリオ開発等に関する専門委員会委員
- 経営情報分析室室員
- テニュアトラック能力開発室委員
- 著作権戦略検討委員会委員
- 図書館ラーニングコモンズ検討ワーキング委員
- 愛媛大学教育改革促進事業（愛大GP）教育改革諮問委員会委員
- 愛媛大学「愛大GP事業」各GP運営委員
- メディアサポーターズ映像部顧問教員(SCV)
- 総合情報メディアセンター会議 委員
- 総合情報メディアセンターコア会議 委員
- 授業コンサルテーション
- 仕様策定委員会委員・委員長

教育学部マルチゾーン型教室設備, eラーニング配信およびネットワーク増強設備, ipadアプリ配信システム, eラーニングコンテンツ収録・編集システムⅠ・Ⅱ

学外審議会・委員会貢献：

- 文部科学省大学間連携共同推進事業運営委員「学士力養成のための共通教育システムを活用した主体的学びの促進プログラム」, 幹事会委員, 2012～
- 文部科学省国立大学改革強化推進事業企画委員「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」, 共同実施モデル検討WG主査校, 2012～
- e-Knowledgeコンソーシアム四国企画委員, 2013～
- 日本教育工学会企画委員会委員, 2013～
- 日本リメディアル教育学会査読委員, 2013～

講演実績：●「若手・中堅職員のための判断力・決断力養

成講座」, 香川大学, 2013年6月

- 「第20回授業デザインワークショップ」, 愛媛大学, 2013年7月
- 「やりたい仕事創造学校」, NPO法人Fネット愛媛, 松山レインボーハイランド, 2013年8月
- 「授業のあり方を見直そう－効果的な看護教育の展開に向けて/学習意欲を高める授業設計とは－」, 愛媛県看護教員継続教育研修会, にぎたつ会館（松山市）, 2013年8月
- 「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」, 愛媛大学, 2013年8月
- 「後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座」, 愛媛大学, 2013年8月
- 「効果的なグループワークの方法」, 愛媛大学, 2013年8月
- 「インストラクショナルデザイン（ID/教育設計）を活用した職員による企画・立案マネジメント」, 愛媛大学, 2013年8月
- 「若手・中堅職員のためのコーディネート力養成講座」, 愛媛大学, 2013年8月
- 「アカデミック・プレゼンテーション（パワーポイント編）」, 愛媛大学, テニュアトラック研修, 2013年8月
- 「アカデミック・プレゼンテーション（動画教材作成編）」, 愛媛大学, テニュアトラック研修, 2013年8月
- 「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」, 聖カタリナ大学, 2013年8月
- 「第21回授業デザインワークショップ」, 愛媛大学, 2013年9月
- 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナルデザイン（ID）入門～ARCS動機づけモデルの活用～」, 愛媛大学, 2013年9月
- 「学生リーダーズ・サマースクール2014 in 中島」, 4大学間共同事業, UNGL事業, 松山市B&G海洋センター, 2013年9月
- 「効果的なeラーニングの活用方法」, 愛媛大学, 2013年9月

- 「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」, メンター, 愛媛大学, 2013年9月
 - 「eラーニング入門～moodleソフトを使ってきめ細やかな学習支援をしよう～」, 愛媛大学, 2013年9月
 - 「プロジェクト・イノベーション実践」, 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルII), 愛媛大学, 2013年9月
 - 「ファカルティーディベロッパー (FDer)・SDコーディネーター養成研修」, 教職員能力開発拠点事業, コンソーシアム京都, 京都, 2013年10月
 - 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナルデザイン (ID) 入門～ARCS動機づけモデルの活用～」, 愛媛大学理学部, 2013年11月
 - 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナルデザイン (ID) 入門～ARCS動機づけモデルの活用～」, 徳島大学FDセミナー, 2013年11月
 - 「SDプログラム開発ワークショップ (国際連携系プログラム開発)」, 愛媛大学, 2013年10月
 - 「ACCESS (基礎)」大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (共通科目), 愛媛大学, 2013年12月
 - 「愛媛大学医学部リーダーズ研修」, 愛媛大学医学部, 2013年12月
 - 「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」, 愛媛大学, 2014年1月
 - 「インストラクショナルデザイン (ID/教育設計) を活用した職員による企画・立案マネジメント」, 次世代リーダー養成研修, 徳島大学, 2014年1月
 - 「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」, 創価大学FDセミナー, 2014年2月
 - 「松山大学サークル・リーダーズ研修会」, 松山大学, ホテル奥道後 (松山市), 2014年2月
 - 「次世代リーダー養成研修 (年4回:12日間)」, 愛媛大学 (春期5月), 桃山学院大学 (夏期8月), 高松テレサ (高松市) (秋期11月), 徳島大学 (冬期1月)
- 地域啓発活動・教育機関支援活動:**
- SDプログラム開発とSD先進事例, インストラクショナルデザインについて, 芝浦工業大学, 2013年12月
 - eラーニングの普及推進について (コンテンツ開発, 学内普及方策, 体制・組織整備など全般), 北海道大学, 2014年3月
 - シラバスの見直し支援, 愛媛県看護教員継続教育研修会, 愛媛県看護協会10機関 (46名) 愛媛県内の看護専門学校教員を含む, 2013年8月～12月



佐々木 隆志

SASAKI Takashi

生年月日: 1974年3月16日

職名: 助教 (兼)

電話: 089-927-8354

FAX: 089-927-8805

E-mail: sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

- 職歴:**
- 京都科学技術専門学校 (京都府京都市) 非常勤講師 (2001年4月～2003年3月)
 - 京都コンピュータ学院 (京都府京都市) 非常勤講師 (2004年4月～2005年3月)
 - 国立国会図書館関西館 (京都府精華町) 非常

勤調査員 (2004年6月～2007年2月)

- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2004年10月～2005年3月)
- 奈良産業大学 (奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師 (2005年4月～2007年2月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2005年12月～2006年3月)
- 京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員 (2006年12月～2007年2月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター (2007年2月)
- 愛媛大学経営情報分析室 (2013年10月)

- 学歴：●京都大学理学部卒業（物理学専攻）
（1998年3月）
●奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士前期課程修了（2000年3月）
●京都大学大学院情報学研究科博士後期課程単位取得退学（2004年3月）
- 学位：2000年修士（工学）（奈良先端科学技術大学院大学）
- 所属学会：情報処理学会, IEEE
- 専門分野：情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning
- 研究課題：e-Learningシステムのデザインと効果分析, 自律分散ネットワーク, 大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ, 自律分散音響測位システム
- 部局内貢献：●EPOCH@まつやま実行委員（2007年度～）
●eラーニング推進検討ワーキンググループ（2009年度～）
- 学外審議会・委員会活動：
●e-Knowledgeコンソーシアム四国企画委員
●システム専門委員（2008年～）
●eまつやま最先端技術研究会理事（2010年度～）
●情報処理学会四国支部評議員（2010年度～）
●Treasurer of IEEE Shikoku Section（2011年～）
●国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員
●日本Androidの会四国支部
●愛媛情報セキュリティ研究会（通称セキュリティみかん）
●オープンセミナー愛媛実行委員
●オープンソースカンファレンス愛媛実行委員
●情報セキュリティシンポジウム道後実行委員
- 講演実績：●Moodle講習会（2013年3月）

(1)研究活動

【著書】

仲道 雅輝

- 「大学における学習支援への挑戦－ICTを活用した教育改善の実践事例－」ナカニシヤ出版，仲道雅輝，分担執筆3章－6節（eラーニング運用事例），11章－1節，概説（組織・運営/学部教育），2014.8（発刊予定）

【論文（過去5年間）】

中川 祐治

原著論文

- 背景領域削除による類似画像検索の検索精度向上，栃原康介・中川祐治，第3回楽天研究開発シンポジウム講演論文，pp.1-6，2010

紀要・抄録

- 全方向微分フィルタによる黒目の検出，宮内泰明・中川祐治，平成25年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.232，2013
- 受講者観察システムにおけるSaccade有無の検出，中北真偉・中川祐治，電子情報通信学会技術研究報告 Vol.112, No.300, pp.67-71, 2012
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築，宮内泰明・中川祐治，電子情報通信学会技術研究報告 Vol.112, No.225, pp.41-45, 2012
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築，宮内泰明・中川祐治，平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.236，2012
- 受講者観察システムにおけるSaccadeの検出，中北真偉・中川祐治，平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.237，2012
- 背景領域削除に対するピンぼけ度合いの影響評価，吉本祐真・中川祐治，平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.238，2012
- GPUを導入した受講者観察システムの開発，栃原康介・越智勇太・中川祐治，平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.19，2011
- Android端末によるガイドシステムの構築，中北真偉・宮内泰明・中川祐治，平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.20，2011
- 類似画像検索のための背景領域削除，栃原康介・中川祐治，平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.148，2010
- AndroidのGUIを用いたアプリケーション開発，高木陽介・中川祐治，平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.270，2010
- Android端末での問診票アプリケーションの提案，黒田史子・吉本祐真・中川祐治，平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.271，2010
- Android端末へのOpenCVの導入と評価，兒玉崇志・中北真偉・中川祐治，平成22年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.272，2010
- メタバースで計算幾何学の一発見を体験するシステムの開発，中川祐治，CIEC2009PCカンファレンス論文集，pp.283-286，2009
- 受講者観察システムの最適化における一考察，平塚伸治・中川祐治，平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.215，2009
- Open Simulatorにおける疑似体験システムの構築，中川祐治・阪本頼則，平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集，p.216，2009

野口 一人

原著論文

- Development of Terabit-scale Compact Hierarchical Optical Cross-connect System Using Planar Device Integration, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, IEEE Journal of Lightwave Technology, Vol. 29, No. 4, pp. 449-455, 2011
- Multi-hop Signal Transmission Experiments Employing PLC-based Hierarchical Optical Cross-connect System, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 22, No. 21, pp. 1586-1588, 2011
- Full-mesh wavelength channel assignments over interconnected star-shaped networks employing coprime-channel-cycle arrayed-waveguide gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, H. Takahashi, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 22, No. 5, pp. 302-304, 2010
- Wavelength Path Reconfigurable AWG-STAR Employing Coprime-Channel-Cycle Arrayed-Waveguide Gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, S. Kamei, H. Takahashi, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 21, No. 14, pp. 1005-1007, 2009

国際学会発表論文

- K. Noguchi, "Remote Seminar Trials of Fetal Echocardiography in Japan," The 7th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2013.
- K. Noguchi, M. Kawataki, E. Abe, H. Uose, and S. Urushidani, "Remote Seminar Trial of Fetal Echocardiography over SINET4," The 6th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2012.
- High-speed Reliable Transmission System for Super Hi-vision Transmission over Global IP Network, Ogawara, M. Nomura, T. Fujii, K. Noguchi, T. Yamaguchi, K. Kawazoe, Y. Shishikui, Y. Nojiri, IBC 2011, Cutting Edge Technologies II - Signal Processing & Imaging, 2011
- Crosstalk calculation technique for implementing on simulator of photonic network, T. Sakai, D. Hanawa, K. Noguchi, T. Sakamoto, K. Oguchi, TSP 2011 - 34th International Conference on Telecommunications and Signal Processing, 2011
- Compact 4x4 Optical Cross-connect with Add/Drop Ports using PLC Technology, K. Noguchi, O. Moriwaki, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, M. Okuno, OFC/NFOEC 2011, NThB2, 2011
- Software Simulator Prototype for Wavelength Routing Network Design, T. Sakai, D. Hanawa, K. Noguchi, T. Sakamoto, K. Oguchi, TSP 2010-33rd International Conference on Telecommunications and Signal Processing, pp. 363-366, 2010
- Terabit-scale compact Hierarchical Optical Cross-connect System Employing PLC Devices and Optical Backplane, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, OFC/NFOEC 2010, PDP C9, 2010
- Full-mesh wavelength routing over interconnected AWG-STARs Employing Coprime-Channel-Cycle Arrayed-Waveguide Gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, H. Takahashi, ECOC2009, P3. 09, 2009
- Wavelength path reconfigurable AWG-STAR employing coprime-channel-cycle arrayed-waveguide gratings, O. Moriwaki, K. Noguchi, T. Sakamoto, S. Kamei, H. Takahashi, OFC/NFOEC 2009, OMG4, 2009

紀要・抄録・報告

- 研究教育ネットワークを使った遠隔医療実験, 野口一人, 電子情報通信学会誌, Vol. 94, No. 3, pp. 192-198, 2011
- グローバルな研究教育用IPネットワークを用いたスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野尻祐司, 井口和久, 野口一人, 藤井竜也, 小河原成哲, 放送技術, Vol. 64, No. 6, pp. 135-142, 2011
- GEMnet2を使ったスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野口一人, 山口高弘, 川添雄彦, 鹿喰善明, 野尻祐司, NTT技術ジャーナル, Vol. 23, No. 3, pp. 84-87, 2011
- GEMnet2: Overview and Activity, K. Noguchi, NTT Technical Review, Vol. 7, No. 2, pp. 1-4, 2009
- Transmission of High-definition Video Stream Using GEMnet2, Kazuto Noguchi, Tetsuo Kawano, NTT Technical Review, Vol. 7, No. 2, pp. 5-8, 2009

川原 稔

原著論文

- Group replica caching scheme for optical grid networks, Optical Switching and Networking 10, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Vol. 10, pp. 223-232, 2013
- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・荻田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 23, No. 2, pp. 157-165, 2012.
- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.
- Parallel and multi-wavelength downloading in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 22, No. 3, pp. 245-253, 2011.
- データマイニングによる学習管理システムログからの学習行動と効果の関係導出, 明賀啓太・佐々木隆志・川原稔, 可視化情報学会第37回可視化情報シンポジウム講演論文集, pp. 83-88, 2009.

国際学会発表論文

- Replica caching scheme according to status of neighboring nodes in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, the 2nd IFIP International Conference on Network of the Future (NoF 2011), CD-ROM, 2011.
- Replica selection for parallel and multi-wavelength downloading in optical grid networks, Hirata, K. and Kawahara, M., 4th Workshop on Network Control and Optimization (net-coop '10), pp. 82-89, 2010.

紀要・抄録・報告

- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会 教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp. 41-46, 2011.
- 光パースト交換網におけるマルチキャストを考慮した競合回避手法, 平田孝志・川原稔, 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会 信学技報NS2010-166, Vol. 110, No. 448, pp. 19-24, 2011.
- 光グリッドネットワークにおける複数波長を用いた並列ダウンロード手法, 平田孝志・川原稔, 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会 信学技報NS2010-88, Vol. 110, No. 286, pp. 1-6, 2010.
- ロービジョン者のパソコン操作環境を最適化するための視覚特性評価キットの開発, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会教育工学研究会 信学技報ET2010-36, Vol. 110, No. 209, pp. 61-66, 2010.

和田 武

原著論文

- Haiku入門システム構築に向けた構文解析, 和田武, 教育情報研究, Vol. 30, No. 1, 2014
- 英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出, 和田武, 大学情報システム環境研究, Vol. 16, pp. 70-77, 2013.
- CMS小テスト問題分析による授業改善の試み, 和田武, 学術情報処理研究, pp. 167-173, No. 16, 2012.
- 研究開発用ネットワークを利活用した遠隔合唱実験, 和田武, 井上洋一, 田邊隆, 永井明, 三原義樹, 教育情報研究, Vol. 27, No. 2, pp. 23-29, 2011.
- 基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作, 和田武・矢野忠, 大学情報システム環境研究, Vol. 14, pp. 98-104, 2011.
- グループ別にみられる教育効果の違い - 学習ニーズの向上と習得した知識量および今後の学習意欲 -, 和田武・南本長穂, 教育情報研究, Vol. 24, No. 2, pp. 37-46, 2008.

紀要・抄録・報告

- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて - 子どもから大人へ, 楽しく, 感動する音楽活動の場の創造 -, 楠俊明・石川貴恵・来嶋英生・井上洋一・田邊隆・和田武, 愛媛大学教育学部初等教育研究紀要, Vol. 44, pp. 133-144, 2011.
- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて - 子どもから大人へ, 美しく感動する音楽活動の場の創造 -, 愛媛大学教育学部附属中学校研究紀要, Vol. 63, pp. 101-108, 2011.

阿萬 裕久

原著論文

- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法におけるフィルタリングとその効果, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XX, pp. 251-256, 2013.
- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法の有効性に関する実証的考察, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム2013論文集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルに基づいた効果的なテスト選択手法の提案と実践, 小笠原秀人・佐々木愛美・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム2013論文集, オンライン, 2013.
- ソースコード改変におけるコメント文の相対的な変化量に着目したフォールト潜在性の分析, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XIX, pp. 45-50, 2012.
- A Feature Analysis of Co-changed Code Clone by Using Clone Metrics, Myrizki Sandhi Yudha・Ryohei Asano・Hirohisa Aman, IEICE Transactions on Fundamentals, Vol. E95-A, No. 9, pp. 1498-1500, 2012.
- 工程別の欠陥埋め込み件数の予測, 衣簾宏和・野中誠・阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2012論文集, オンライン, 2012.
- 論理的制約条件付き 0-1 計画モデルを用いた重点レビュー計画法, 阿萬裕久, コンピュータソフトウェア, Vol. 29, No. 3, pp. 115-120, 2012.
- ソースファイルにおけるコメントの増加傾向に着目したフォールト潜在予測, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム2012論文集, オンライン, 2012.
- オープンソースソフトウェアにおけるコメント記述およびコメントアウトとフォールト潜在との関係に関する定量分析, 阿萬裕久, 情報処理学会論文誌, Vol. 53, No. 2, pp. 612-621, 2012.
- 論理的制約条件付 0-1 計画問題として定式化した重点レビュー対象モジュールの選択, 阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XVIII, pp. 197-206, 近代科学社, 2011.
- ソフトウェアメトリクスとデータ分析の基礎, 阿萬裕久・野中誠・水野修, コンピュータソフトウェア, Vol. 28, No. 3, pp. 12-28, 2011.
- コードクローンの長さと同変更改の起こりやすさとの関係に関する解析, Myrizki Sandhi Yudha・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム2011論文集, オンライン, 2011.
- 整数計画法を用いた重点レビュー対象モジュールの選択, 阿萬裕久・山下裕也, コンピュータソフトウェア, Vol. 27, No. 4, pp. 240-245, 2010.
- 組合せテストの評価と直交表を用いた網羅率改善法, 曾我部幸司・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XVII, pp. 143-148, 近代科学社, 2010.
- オープンソースソフトウェアにおけるコメント文記述とフォールト潜在率との関係に関する実証的考察, 阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリング最前線2010, pp. 97-100, 近代科学社, 2010.
- 直交表を用いた単体テスト向けテストケースの効率的生成法, 曾我部幸司・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XVI, pp. 167-174, 近代科学社, 2009.

国際学会発表論文

- 0-1 Programming Model-Based Method for Planning Code Review using Bug Fix History, Hirohisa Aman, Proc. 5th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP 2013), pp. 37-42, 2013.
- Application of the 0-1 Programming Model for Cost-Effective Regression Test, Hirohisa Aman・Manami Sasaki・Kei Kureishi・Hideto Ogasawara, Proc. 37th IEEE Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC 2013), pp. 721-722, 2013.
- An Empirical Analysis of the Impact of Comment Statements on Fault-Proneness of Small-Size Module, Hirohisa Aman, Proc. 19th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2012), pp. 362-367, 2012.
- An Empirical Analysis on Fault-proneness of Well-Commented Modules, Hirohisa Aman, Proc. 4th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP 2012), pp. 3-9, 2012.
- An Analysis of Co-changeable Code Clone by using Clone Metrics, Myrizki Sandhi YUDHA・Ryohei ASANO・Hirohisa AMAN, Supplemental Proc. IEEE 22nd International Symposium on Software Reliability Engineering (ISSRE 2011), CD-ROM, 2011.
- A Proposal of NHPP-Based Method for Predicting Code Change in Open Source Development, Hirohisa

Aman, Proc. The Joint Conference of the 21st International Workshop on Software Measurement and the 6th International Conference on Software Process and Product Measurement (IWSM-MENSURA 2011), pp. 38-47, 2011.

- An Application of Growth Curve Model for Predicting Code Churn in Open Source Development, Hirohisa AMAN・Takahiro OHKOCHI, Proc. Ninth Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering (JCKBSE' 10), pp. 46-54, Aug. 2010.
- Test Case Generation Focusing on Method-Invocation Pairs Based on Orthogonal Array, Hirohisa AMAN, Proc. 1st International Symposium on Tangible Software Engineering Education, pp. 103-108, 2009.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発におけるソースコード変更予測に向けた成長曲線モデルの多段的利用について, 山下彰子・阿萬裕久, 情報処理学会ウインターワークショップ2014・イン・大洗論文集, pp. 93-94, 2014.
- コメントの記述位置の違いに着目したフォールト潜在性の分析—メソッドの前に書かれるコメントとメソッドの中に書かれるコメント—, 阿萬裕久, 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2013併設ワークショップ「開発マネジメントにおける産学の問題共有と連携強化」予稿集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルを用いたコードレビュー計画に対するフィルタリングの効果について, 井上慎也・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 159, SS2013-31, pp. 109-114, 2013.
- 小規模プログラムにおけるコメント行数とフォールト潜在性の関係に関する調査, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 24, SS2013-12, pp. 67-72, 2013.
- 0-1 計画モデルを利用したメソッド単位でのコードレビュー計画について, 井上慎也・阿萬裕久, ウインターワークショップ2013・イン・那須論文集, pp. 27-28, 2013.
- 0-1 整数計画法を用いた不具合修正タスクの割当支援, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久, ウインターワークショップ2013・イン・那須論文集, pp. 19-20, 2013.
- コメント記述量の増加傾向とフォールト潜在との関係に関する定量分析, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 112, No. 164, SS2012-28, pp. 109-114, 2012.
- Fault-proneモジュール予測に対するコメント記述量の効果に関する考察, 阿萬裕久, ウインターワークショップ2012・イン・琵琶湖論文集, pp. 45-46, 2012.
- コード間の依存関係及びクローン関係に着目したコード変更の生存時間解析, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 111, No. 211, pp. 67-72, 2011.
- Fault-Proneモジュール予測を利用した効率的なレビュー計画及びテスト計画について, 阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2011併設ワークショップ, オンライン, 2011.
- オープンソースソフトウェアにおけるコード変更事象のモデル化に関する考察, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 111, No. 169, pp. 19-24, 2011.
- ソースコード変更事象の数理モデル化と予測について, 阿萬裕久, ウインターワークショップ2011・イン・修善寺論文集, pp. 109-110, 2011.
- フォールト潜在予測に向けたコメント文記述及びコメントアウトの定量分析, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 110, No. 305, pp. 13-18, 2010.
- オープンソース開発におけるコード変更量の数理モデル化と予測について ～成長曲線モデルを用いた実験～, 大河内高博・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 110, No. 158, pp. 25-30, 2010.
- 効果的なレビューのためのモジュール選択について—ナップサック問題としての定式化—, 山下裕也・阿萬裕久, ウインターワークショップ2010・イン・倉敷論文集, pp. 103-104, 2010.
- オープンソース開発におけるコード変更量の推移予測に関する考察 ～成長曲線モデルの適用～, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 109, No. 343, pp. 73-78, 2009.
- オープンソース開発管理に対する成長曲線モデルの適用について, 阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2009併設ワークショップ, オンライン, 2009.
- オープンソース開発におけるコードの追加及び修正の分布に関する考察, 谷藤啓太・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 109, No. 150, pp. 19-24, 2009.
- オープンソース開発におけるバグ数見積りに向けた管理図と成長曲線モデルの利用, 大河内高博・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 109, No. 41, pp. 61-66, 2009.

仲道 雅輝

原著論文

- 「インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計) を活用した対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援」, 仲道雅輝・秋山英治・清水史, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第12号: pp. 47-54, 2014. 3.
- 「『科目ガイダンスVOD』を基軸としたFD-全学的なe-learning推進を実現する教員の意識改革」, 仲道雅輝・松葉龍一・江川良裕・大森不二雄・鈴木克明, 日本教育工学会論文誌33 (増刊号): pp. 25-28, 2009.

国際学会発表論文

- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Nakamichi, M., Sato, S. and Suzuki, K., A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), Beijing, china. 2012.
- 「Promotion of University-Wide e-learning through Course Guidance VODs-A Case study at Nihon Fukushi University」, Masaki Nakamichi, Ryuichi Matsuba, Yoshihiro Ekawa, Fujio Ohmori, Katsuaki Suzuki, A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education) Seoul National University, Korea. pp. 93-100, 2009.

紀要・抄録・報告

- 「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」, 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp. 282-283, 2013.
- 「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」, 泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp. 284-285, 2013.
- 「プレイスメントテスト実施方法に関する一考察」, 仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディアル教育学会第9回全国大会発表予稿集, pp. 6-7, 2013.
- 「教職員能力開発拠点の取組-SD講師・SDコーディネーター (SDC) の養成 (事例報告)-」米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp. 49-50, 2013.
- 「大学間連携SDを活用した次世代リーダー養成システム~SPOD-SDの事例から~」, 秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp. 89-90, 2013.
- 「授業設計および教材作成支援による大学でのe-learning普及推進の取り組み」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集, pp. 805-806, P2a-1-404-07. 2013.
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治, 仲道雅輝, 大学eラーニング協議会合同フォーラム予稿集, pp. 15-18, 2013.
- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Masaki Nakamichi, 熊本大学国際奨学事業報告書, pp. 159-160, 2013.
- 「大学教育の未来を支えるeラーニングの可能性/愛媛大学のeラーニング推進の取組~教育デザイン室の設置~」仲道雅輝, [シンポジウム], 国立大学改革強化推進事業第1回シンポジウム, 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業, 愛媛大学, 2013.
- 「国立大学法人におけるe-learning推進の取り組み~私立大学での実践成果から~」, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, Vol. 2, No. 1, pp. 23-26, 2012.
- 「愛媛大学「FDカレンダー」によるFD活動の普及に関する取組~学習動機を高める6つのコツ~」, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, Vol. 1, No. 1, pp. 21-24, 2011.
- 「全学的なe-learning普及施策を踏まえた教員のe-learningへの意識変容に関わる研究~教員ヒアリング結果より~」, 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明, 日本教育メディア学会第19回年次大会講演論文集, pp. 55-56, 2012.
- 「パブリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育 (新入生セミナー) の効果検証」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, pp. 279-280, 2012.
- 「全学的にe-learning普及推進する仕掛けの提案-日本福祉大学を事例として-」, 仲道雅輝・佐藤慎一・喜多敏博・中野裕司・大森不二雄・鈴木克明, 教育システム情報学会第35回全国大会発表論文集, pp. 23-24, 2010.
- 「『科目ガイダンスVOD』の次なる仕掛け-学習支援システムの活用とICT活用能力の向上-」, 仲道雅輝・佐藤慎一・松橋秀親・松葉龍一・江川良裕・鈴木克明, 日本教育工学会第25回全国大会発表論文集P1p-FLS-

35, 2009.

- 『『科目ガイダンスVOD』に類似する取組の訪問調査－全学的なe-learning推進へのポイント－』, 仲道雅輝・松葉龍一・江川良裕・大森不二雄・鈴木克明, 教育システム情報学会 第34回全国大会発表論文集, pp. 514-515, 2009.

佐々木隆志

原著論文

- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.
- データマイニングによる学習管理システムログからの学習行動と効果の関係導出, 明智啓太・佐々木隆志・川原稔, 第37回可視化情報シンポジウム講演論文集, pp. 83-88, 2009.

紀要・抄録・報告

- みんなでおでんきPJ～スマートメータシステムの実装～, 二宮政浩, 鈴木才太, 佐々木隆志, 都築伸二, 鈴木信, 兼築史季, 早田洋一, 山田芳郎, 情報処理学会研究報告IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123, No. 3, pp. 1-8, 2013.
- みんなでおでんきPJ～ソーシャルコンセントの実装～, 松重雄大, 鈴木才太, 佐々木隆志, 都築伸二, 鈴木信, 兼築史季, 早田洋一, 山田芳郎, 情報処理学会研究報告IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123, No. 2, pp. 1-6, 2013.
- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp. 41-46, 2011.
- ロービジョン者のパソコン操作環境を最適化するための視覚特性評価キットの開発, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会教育工学研究会 信学技報ET2010-36, Vol. 110, No. 209, pp. 61-66, 2010.

(2)学会発表等

中川 祐治

- 全方向微分フィルタによる黒目の検出, 宮内泰明・中川祐治, 平成25年度電気関係学会四国支部連合大会, 徳島大, 2013年9月21日

和田 武

- 英語俳句シキ・メーリングリスト(1994-2013)と大学情報センター・海外俳人・地方自治体の相互関連, 墨岡学・和田武・デビッドボグダン・内原大輔, 情報処理学会第76回全国大会, 5G1, pp.4-467~468, 2014.3
- 英語メーリングリストの構文解析, 和田武・墨岡学, 日本教育情報学会第29回年会, 10F08, 2013.
- 英語俳句投句支援システム構築に向けた構文解析, 和田武・墨岡学, 2013PC Conference論文集, 4C5, pp.181-182, 2013.8

阿萬 裕久

- オープンソース開発におけるソースコード変更予測に向けた成長曲線モデルの多段的利用について, 山下彰子・阿萬裕久, 情報処理学会ウインターワークショップ2014・イン・大洗, 大洗ホテル, 2014.
- ソフトウェアメトリクスとその関連分野の研究動向について(招待講演), 阿萬裕久, 電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会, 愛媛大学, 2013.
- コメントの記述位置の違いに着目したフォールト潜在性の分析-メソッドの前に書かれるコメントとメソッドの中に書かれるコメント-, 阿萬裕久, 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2013併設ワークショップ, 東洋大学, 2013.
- 数理計画モデルを用いたコードレビュー計画に対するフィルタリングの効果について, 井上慎也・阿萬裕久, 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会, 北海道立道民活動センター, 2013.
- 小規模プログラムにおけるコメント行数とフォールト潜在性の関係に関する調査, 阿萬裕久, 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会, 香川大学, 2013.

仲道 雅輝

- 「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」, 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp.282-283, 東北大学, 2013.
- 「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」, 泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp.284-285, 東北大学, 2013.
- 「プレイズメントテスト実施方法に関する一考察」, 仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディア教育学会第9回全国大会発表予稿集, pp.6-7, 広島修道大学, 2013.
- 「教職員能力開発拠点の取組-SD講師・SDコーディネーター(SDC)の養成(事例報告)-」米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp.49-50, 東京電機大学, 2013.
- 「大学間連携SDを活用した次世代リーダー養成システム~SPOD-SDの事例から~」, 秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp.89-90, 東京電機大学, 2013.
- 「授業設計および教材作成支援による大学でのe-learning普及推進の取り組み」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集, pp.805-806, P2a-1-404-07, 秋田大学, 2013.
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治, 仲道雅輝, 大学eラーニング協議会合同フォーラム予稿集, pp.15-18, 佐賀大学, 2013.

(1)教育活動

【講義】

中川 祐治

1)講義 (情報リテラシー入門)

- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 149名, 共通基礎教育科目, 学部
- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 99名, 共通基礎教育科目, 学部

2)講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度前期, 環境を考える (シェアリングネイチャー), 17名, 教養教育科目, 学部
- 2013年度前期, 環境ESD (環境ESD指導者養成講座Ⅱ), 14名, 教養教育科目, 学部
- 2013年度前期, 卒業研究Ⅰ, 3名, 専門教育科目, 学部
- 2013年度前期, 数理科学ゼミナールⅠ, 1名, 専門教育科目, 修士
- 2013年度前期, 数理科学ゼミナールⅢ, 1名, 専門教育科目, 修士
- 2013年度後期, 環境ESD (環境ESD指導者養成講座Ⅰ), 30名, 教養教育科目, 学部
- 2013年度後期, コンピュータ基礎, 52名, 専門教育科目, 学部
- 2013年度後期, 数学セミナーⅡ, 1名, 専門教育科目, 学部
- 2013年度後期, 情報数理学統論, 2名, 専門教育科目, 学部
- 2013年度後期, 卒業研究Ⅱ, 3名, 専門教育科目, 学部
- 2013年度後期, 応用数学, 11名, 専門教育科目, 修士
- 2013年度後期, 数理科学ゼミナールⅡ, 1名, 専門教育科目, 修士
- 2013年度後期, 数理科学ゼミナールⅣ, 1名, 専門教育科目, 修士

野口 一人

1)講義 (情報リテラシー入門)

- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 140名, 共通基礎教育科目, 農学部
- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 197名, 共通基礎教育科目, 法文学部

2)講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度前期, 情報ネットワーク, 95名, 専門教育科目, 工学部, 教育学部
- 2013年度前期, ネットワークシステム特論Ⅰ, 2名, 修士
- 2013年度後期, ネットワークシステム特論Ⅱ, 3名, 修士
- 2013年度後期, 応用情報工学特論X, 1名, 博士

川原 稔

2)講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度後期, 情報ネットワーク特論, 10名, 専門教育科目, 修士
- 2013年度後期, 人間科学入門, 129名, 普通教育科目, 学部

和田 武

1)講義 (情報リテラシー入門)

- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 48名, 共通基礎教育科目, 法文学部

2)講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度前期, データベース論, 25名, 専門教育科目, 教育学部
- 2013年度前期, データベース演習, 24名, 専門教育科目, 教育学部
- 2013年度前期, プロジェクト研究Ⅰ, 2名, 教育学部
- 2013年度前期, 教材研究の基礎理論 (情報), 1名, 教育学研究科修士課程

3. 教育活動及び教育支援

(1)教育活動

- 2013年度後期, プログラミング言語 I, 11名, 専門教育科目, 教育学部
- 2013年度後期, プログラミング演習 I, 12名, 専門教育科目, 教育学部
- 2013年度後期, 人文学情報処理演習A, 39名, 専門教育科目, 法文学部
- 2013年度後期, プロジェクト研究 II, 2名, 教育学部
- 2013年度後期, 教材の開発と実践 (情報), 1名, 教育学研究科修士課程

阿萬 裕久

1) 講義 (情報リテラシー入門)

- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 41名, 共通基礎教育科目, 教育学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度前期, ソフトウェア工学, 95名, 専門教育科目, 工学部
- 2013年度前期, ソフトウェア工学演習, 55名, 専門教育科目, 工学部
- 2013年度前期, ソフトウェアシステム特論 I, 31名, 専門教育科目, 理工学研究科修士
- 2013年度前期, 課題研究, 2名, 附属高校
- 2013年度後期, データ構造とアルゴリズム, 91名, 専門教育科目, 工学部
- 2013年度後期, プログラミング言語 I 演習, 87名, 専門教育科目, 工学部
- 2013年度後期, 情報工学実験 I, 85名, 専門教育科目, 工学部

仲道 雅輝

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

- 2013年度前期, 「新入生セミナー」, 55名, 初年次科目, 共通教育
- 2013年度前期, 「愛媛大学リーダーズスクール」, 30名, 発展科目, 共通教育
- 2013年度前期, 「高大連携授業」, 愛媛大学附属高等学校2年生, 80名, 附属高校
- 2013年度前期, 「発展的ICT総合科目 I」大学院ICTスペシャリストコース, 3名, 大学院
- 2013年度後期, 「愛媛大学リーダーズスクール」, 30名, 発展科目, 共通教育
- 2013年度後期, 「倫理と生き方」, 80名, 教養科目主題科目/知の展開科目, 共通教育
- 2013年度後期, 「高大連携授業」, 愛媛大学附属高等学校1年生, 80名, 附属高校
- 2013年度後期, 「愛媛大学サマースクール」, 50名, 集中, 発展科目, 共通教育

佐々木隆志

1) 講義 (情報リテラシー入門)

- 2013年度前期, 情報リテラシー入門, 共通基礎教育科目, 学部

【論文指導】

中川 祐治

- 2013年度 卒業論文指導 学生数 3名
- 2013年度 修士論文指導 学生数 1名

川原 稔

- 2013年度 卒業論文指導 学生数 6名
- 2013年度 修士論文指導 学生数 1名

和田 武

- 2013年度 卒業論文指導 学生数 2名

仲道 雅輝

- 2013年度 SPOD次世代リーダー養成ゼミ, 修了論文指導 (主査), 学生数2名

阿萬 裕久

- 2013年度 卒業論文指導 学生数 5名
- 2013年度 修士論文指導 学生数 1名

【論文審査】

中川 祐治

- 2013年度 修士論文審査数（主査）1名
- 2013年度 修士論文審査数（副主査）1名

野口 一人

- 2013年度 修士論文審査数（副主査）1名

川原 稔

- 2013年度 修士論文審査数（主査）1名

阿萬 裕久

- 2013年度 修士論文審査数（主査）1名
- 2013年度 修士論文審査数（副査）3名

(2)教育支援

【授業改善】

仲道 雅輝

- 教育デザイン室の設置による授業設計支援

愛媛大学におけるe-learningを活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要として「教育デザイン室」（インストラクショナル・デザイン・オフィス）を設置し、ICTを活用した授業設計を支援する体制を整備した。

教育デザイン室は、科目担当者の個別の授業改善を支援するほか、学部の教育改革に伴うカリキュラム改善に関わる支援など、ICTを活用した教育方法の提案を行っている。各授業では、科目担当教員は、日々の授業や業務の合間の時間を活用して授業設計の改善に取り組むことができるよう、専属の担当者がインストラクショナル・デザイン(教育設計)手法を用いた個別の支援を行っている。また、授業設計やカリキュラム設計、フィールドワークと対面授業の効果的な授業設計、e-learningと対面授業の効果的な授業設計等についても支援している。

- 授業コンサルテーション、2013年 学内(理学部1回)、学外5件(大阪学院大学、芝浦工業大学、徳島大学、高知大学、北海道大学、愛媛県立医療技術大学)

- FD研修会講師

- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法(学内1回、学外1回)」, 教育・学生支援機構, 創価大学, 2014年1月, 2月
- ・「授業デザインワークショップ(2回)」, 教育・学生支援機構, 2013年7月, 9月
- ・「効果的なグループワークの方法」, SPODフォーラム, 2013年8月
- ・「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS動機付けモデルの活用～(学内2回、学外1回)」, SPOD, 愛媛大学理学部, 徳島大学, 2013年9月, 11月
- ・「e-learning入門～Moodleソフトを使ってきめ細やかな学習支援を実現しよう～」, 教育・学生支援機構, 2013年9月
- ・「効果的なeラーニングの活用方法」, 教育・学生支援機構, 2013年9月

【サークル等活動指導】

中川 祐治

- キリスト者学生会(KGK)顧問

和田 武

- SCVメディアサポーターズ映像部顧問(～2013年前期)

仲道 雅輝

- SCVメディアサポーターズ映像部顧問

(1) 研究成果

中川 祐治

● 小型端末のアプリケーション開発

愛媛県との共同研究として「画像認識を用いたアクティブな家庭向け見守りシステムの開発」を行った。本研究で構築したシステムは、屋外の利用者が携帯端末（タブレット）のアプリケーションにより、室内の映像をリアルタイムで確認でき、さらにサーバが映像に画像処理・画像認識を行う事で異常を検知し、タブレットのアプリケーションからアラームを発する。タブレットのアプリケーションはHTML5で構築されたWebアプリケーションであり、Android, iOS, Windowsに対応しておりタブレットの機種に依存しない。本システムで検知できる異常は、火災の発生、煙の発生、人物の侵入、安否確認の4つである。炎の検知では、輝度値とオプティカルフローの大きさを計算し、閾値を超えたものを炎とすることで実現した。次に、煙の検知は輝度値とオプティカルフローの向きから評価値を求め、閾値を超えたものを煙とすることで実現した。これらの閾値は、実際に火災動画の輝度値とオプティカルフローを観測し決定した。そして、侵入者の検知は分類器により人物の上半身と顔を認識することで実現した。最後に、安否確認は一定時刻ごとの輝度値を比較することによって人物の動きを検知することで実現した。

● 玉葱皮剥き機の画像処理を用いた3次元認識モジュール開発

公益財団法人えひめ産業振興財団の委託を受けて平成25年度戦略的基盤技術高度化支援事業「玉葱皮剥き機の画像処理を用いた3次元認識モジュール開発」に着手した。本事業はシステムエルエスアイ(株)と土佐電子工業(株)との共同研究で、複数のカメラ画像からステレオマッチングにより玉葱の立体構造を構築するアルゴリズムを開発する。また、これと合わせてエッジ抽出、パターンマッチングや濃度分布からの特徴抽出を行い、玉葱の形状判定と状態判定を行うアルゴリズムを開発する。平成25年度は、玉葱のカメラ撮影画像から動的計画法により玉葱の立体構造を求めるアルゴリズムの開発と、カメラ撮影画像をフーリエ変換し周波数空間におけるパワースペクトルを求めることで玉葱皮剥きの際に特に重要となる玉葱の頭部と根の判別を行うパターン認識アルゴリズムの開発を行った。

● 受講者観察システムの実用化研究

前年度の研究より、学習への集中度の測定に統計的手法を導入した結果、約3分の連続計測を行えば、信頼度90%でサッケードの有無が判定できることが分かったが、この測定時間を短縮するために、黒目を円と仮定し、画像中から円候補を探索する「全方向微分フィルタ」を開発した。このフィルタは計算量が大いものの、検出精度が高く、アルゴリズムを最適化することで将来的に受講者観察システムに適応可能と考える。また、これと並行して、顔画像から目領域を検出するためのテンプレートマッチングの動作回数を減少させることで、計算時間を削減する手法についても成果を得た。

野口 一人

● 光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム (LiNbO_3) は、優れた電気光学特性、音響光学特性、非線形光学特性を有しており、光通信システムにおける光変調器、TVや携帯電話における中間周波数 (IF) フィルタ、小型振動子、光ジャイロなど様々な分野で使用されている。

光通信の分野では、光源である半導体レーザの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み、今日の長距離・大容量情報通信ネットワークを支えるキーデバイスの一つである。現在もなお、将来の大容量化を目指して高性能化を目指した研究開発が進められている。今まで進めてきた LiNbO_3 光変調器の設計、製造、評価に関する研究成果と他の研究機関における最新の研究成果をまとめ、著書にした。

現在、光変調器のさらなる高性能化を図るとともに、焦電効果、分極反転など LiNbO_3 の様々な特性を活かした光センサを設計するため、有限要素法による数値シミュレーションを進めている。

● 遠隔医療教育に関する研究

ICT技術の高度利用と地域貢献のため、遠隔医療教育に関する研究を進めている。平成25年9月15日、16日の2日間、東京都千代田区の国立情報学研究所講堂で開催された第49回神奈川胎児エコー研究会アドバンス講座を愛媛大学メディアホールまで遠隔中継し、愛媛県内の産婦人科医を集めて遠隔セミナーを開催した。

図1に接続構成図を示す。国立情報学研究所を主会場とし、会場で実施される専門医のセミナー映像を、ビデオ会議システムとSINET4を使って九州大学病院アジア遠隔医療センターに送信する。遠隔会場である北海道大学、弘前大学、東北大学、金沢大学、名古屋大学、徳島大学、愛媛大学、広島大学、琉球大学も同様にSINET4経由でアジア遠隔医療センターに接続している。九州大学病院ではMCU（多地点接続装置）を使って映像を集約し、セミナーの内容を全国

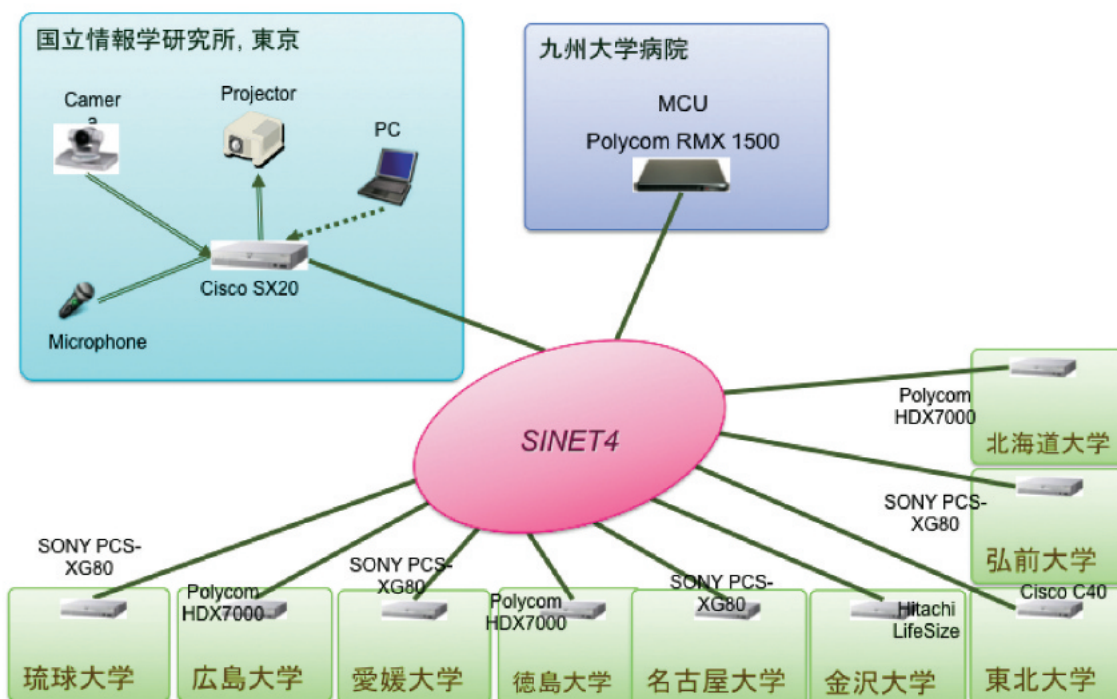


図1 アドバンスセミナー接続構成図

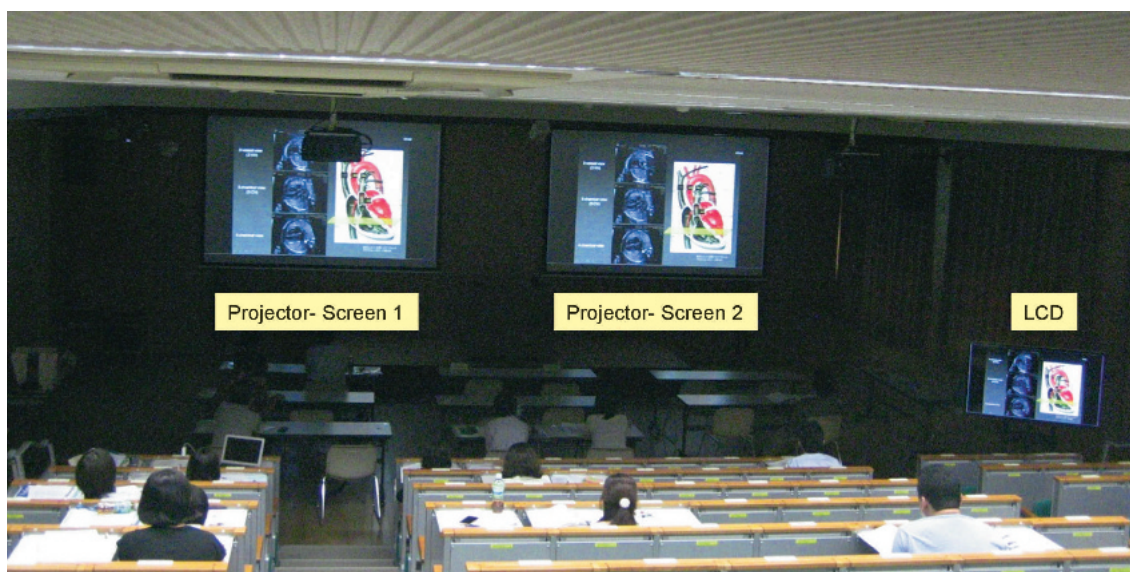


図2 東京会場から伝送され、スクリーンに投影された医療画像

に中継した。参加者は東京会場が328人、地方会場が合わせて219人であった。

図2に当日の状況を示す。愛媛大学メディアホール備え付けのビデオ会議端末を用いて信号を受信し、医療映像を備え付けのプロジェクトLCDに分岐して投影した。丸2日間にわたり、愛媛県立中央病院など愛媛県内の病院やクリニックに加え、高知大学、大分県から産科医合計21名が参加し、胎児心エコーに関する最新の診断技術を受講した。

川原 稔

●情報ネットワーク

ネットワーク上に存在する情報通信デバイス（コンピュータやスマートフォン等）同士により自己組織化して、情報の共有やコンテンツの流通を行うことを可能とするオーバーレイネットワークに関する研究を進めている。それと共に、従来型の情報ネットワークの性能評価にかかわる研究も行っている。オーバーレイネットワークに関しては、情報通信デバイスが無線通信により自律的にネットワークを構成するアドホックネットワークを基盤として、無線通信の状態情報を基に地理的位置の特定や無線LAN環境の通信環境可視化についての研究を進めた。性能評価に関しては、データグリッドにおいて光ネットワークによる効率的なデータ配信アルゴリズムに関する研究と、愛媛大学ネットワークをネットワークシミュレータns-3により忠実に再現したシミュレーション環境を構築した。

●データマイニング

ネットワークやコンピュータの処理能力が高まるにつれて、扱わなければならない情報の量は莫大になっている。その中から有用な情報や目的の情報を抽出するためには、高速で自動的な知識抽出技術が不可欠となる。知識抽出技術としてデータマイニングが注目されて久しいが、この技術を用いて情報検索に対する援用に関する研究を行っている。近年では、学習管理システムに記録される学習行動記録から、学習に有効・効果的あるいは逆効果な行動を導出して、指導に役立てられる知識を導出する研究も行っている。当研究により、eラーニングにおける学習記録の方法論、及び、学習記録から知見を導出する各種のアルゴリズムの研究開発を行うことができた。

●保障情報学

視覚障がいをもつ人々がICT（情報通信技術）を活用して、情報収集やeラーニング学習を効果的に行えるようなICT環境、特に情報デバイスの最適化に関する研究を行っている。平成21～25年度は、特にロービジョン者の視覚特性を正確に計測する技術開発に焦点を当てて研究を進めてきた。その結果、一般に流通している情報デバイスを用いて医療機器に匹敵する視覚特性を計測可能となる手法の開発に成功し、現在も研究開発を進めている。

和田 武

●英語俳句データベースからの特徴抽出

約20年、英語俳句サーバShikiの句会を運用してきた経験に基づき、中学高校生などを含む初心者がもっと容易に英語俳句が投句できるようなくみが必要と感じ、英語俳句投句支援システムの構築に関する研究を行っている。まず、蓄積されたデータベースに形態素解析を加え、英語俳句によく用いられる語彙や英語俳句の構造を分析している。本研究は、2012年3月の情報処理学会第74回全国大会において「英語俳句メーリングリストからの知識抽出」の研究テーマで、2013年3月に国立大学情報システム研究会で「英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出」の研究テーマでそれぞれ発表を行った。2013年度は2013 PC Conferenceで「英語俳句投句支援システム構築に向けた構文解析」、日本教育情報学会で「英語メーリングリストの構文解析」で発表を行った。また、これらの研究について、「Haiku入門システム構築に向けた構文解析」を教育情報研究、Vol. 30, No. 1でまとめている。

●テスト理論に関する研究

Moodle (Course Management System) の多肢選択方式等を用いた小テストによる成績評価が数多く実施されているが、作成した問題の内容によっては、正解率に大きな差が生じて正当な評価ができない場合がある。そこで、受験者の学習評価や指導内容と学習達成度の整合性などを分析し、試験問題の難易度や受験者の能力値といった特性を定量化する項目反応理論やラッシュ測定理論などの現代テスト理論による分析が行われている。2012年8月に2012 PC Conferenceで「現代テスト理論に基づく小テスト問題の分析」の研究テーマで発表し、2012年9月の第16回学術情報処理研究集会で「CMS小テスト問題分析による授業改善の試み」の研究テーマで発表を行った。2013年度は、教育学部総合人間形成課程情報教育コース学生の卒業論文「現代テスト理論に基づく多肢選択問題の妥当性の検証」の論文指導を行った。

●e-Learningによる基礎数学及び基礎物理学の学習

理学部ELサポータの協力も得て、高校数学及び物理学の未修学生のための補習教育や、習得レベルの向上を目指した自学自習システムをe-Learningシステム上に構築し、新入学生の数学及び物理学の基礎的知識の底上げ可能なシステムの開発及び運用を行った。本研究は、大学情報システム環境研究Vol. 14に「基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作」の研究テーマで発表し、愛媛大学Moodleの自主学生教材（高校・大学初年次程度）に数学リメディアル教材、及び物理学リメディアル教材として学内に公開している。

阿萬 裕久**● データ解析に基づいたソフトウェア品質評価・予測に関する研究**

ソフトウェアの品質はその開発に携わる技術者の経験や力量に依存しやすく、個体差が大きい。そのため個々の案件だけでなく、統計的なデータ解析の観点からソフトウェアの品質を評価・予測することが重要であり、90年代後半からこのテーマに取り組んでいる。現在は特に、プログラマがプログラムの中に書き込むコメント文の品質に対する影響に着目しており、科学研究費補助金・基盤研究(C)の研究代表者としてコメント文の功罪について研究を行っている。平成25年度はこのテーマでの成果発表を3件行い、他大学の研究者からは良好な反応が得られている。平成25年5月にはこのテーマに関する発表について、電子情報通信学会知能ソフトウェアサイエンス研究会から研究奨励賞を受賞した。また、従来から続けているデータ解析に基づいたソフトウェア品質評価に関する研究全般について、電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会からの依頼で11月に招待講演を行った。

● 効率的なソフトウェアレビュー及びテストの実践に関する研究

一般にソフトウェアの正しさは、その内容確認と動作確認によって保証される。前者はレビューと呼ばれ、多くの場合は複数の技術者がドキュメントやプログラムの内容を目視によって確認する作業となる。後者はテストと呼ばれ、実際にソフトウェアが正しく動作するかどうかを確認する作業となる。いずれも重要な作業であるが、工数(人手と時間)を多く必要とするところが現場では大きな問題となっている。この問題を解決すべく、2010年頃からレビュー及びテストの計画に数理計画モデルを応用する手法を提案し、その効果について研究を行っている。2012年からは東芝ソフトウェア技術センターとテストの効率化について共同研究を行っており、平成25年度には国際会議にて成果発表を行った。レビューに関しても研究を進めており、こちらも12月に国際会議にて成果発表を行った。

● オープンソース開発データの時系列解析と予測に関する研究

近年、Linuxに代表されるようにオープンソースソフトウェアが広く使われるようになってきた。オープンソースソフトウェアはリポジトリと呼ばれるシステムを介してソースコードそのものがすべて公開されており、その追加や修正もリポジトリで容易に確認できる。しかしながら、単にリポジトリにアクセスするだけでは、現時点での開発状況を把握したり、今後の開発の進展を予測したりするのは容易ではない。そこでリポジトリ上での開発データの推移に対して非同次ボアソン過程モデルといった確率過程モデルを適用し、状況の把握と予測を行う研究を進めている。平成25年度には国内のワークショップにて発表を行った。その後、国際会議へ投稿を行った(※平成26年4月末に採録が決定した)。

仲道 雅輝**● 高等教育機関における全学的なe-learning推進に関わる研究**

本研究は、段階的に研究を進めている。

1段階目は、実践対象校において、履修登録前に学習目標や授業内容の確認を容易にするオンデマンド化された科目ガイダンスビデオを開発し、2008年度より本格的な利用を開始した。この導入により、全教員がe-learningコンテンツ制作に関わることとなったためにe-learning制作に対する不安や負担感を減少させることができた。その一方、シラバスの見直し、学習目標をより明確化する等のFD活動も活発化させ、ICTを活用したブレンド型授業が増加するなどの全学的な教育改善に進展してきている。本研究では、科目ガイダンスビデオの開発、視聴実施に至るまでの組織的な取り組みと、科目ガイダンスビデオ開発の効果を検証するために行った開発に携わった教員へのアンケート調査の結果を報告している。多くの教員は科目ガイダンスビデオの開発をかなり好意的に受け入れており、その視聴実施は受講生に対して十分な効果が認められるという考えをもっていることが分かった。本研究は、論文誌(日本教育工学会/増刊号(2009))(1本)採録、国際学会(教育メディア学会/ICOME2009)(1本)採録されている。

2段階目は、高等教育でのe-learningの全学的普及に効果的な方策を見出し、今後の普及活動への示唆を得ることを目的としている。実践過程の仕掛けの紹介とともに、実践過程を振り返り、e-learningの全学的な普及に向けて大学全体を巻き込んでいくための方策について、教員アンケートや導入段階から普及・定着の過程をまとめ考察している。結果、教員のe-learningコンテンツ制作数の増加につながり、これらからICT活用による授業展開方法の周知等のe-learning普及に対する促進効果が示唆された。本研究を論文誌(教育システム情報学会)に投稿している(1本)。

研究報告としては、国内学会(日本教育工学会:3本、教育システム情報学会:4本、大学eラーニング協議会合同フォーラム:1本)で発表している。

また、対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援の取り組みをまとめたものが、論文誌に1件採録された(愛媛大学教育実践ジャーナル第12号)。

今後は、私立大学と国立大学法人での全学的なe-learning推進に関わる学内マネジメントの重要性を含め、普及要因を普遍化し、広く高等教育機関にモデルとして提示していきたい。

●FD・SD活動の普及要因に関わる研究

FD活動の一環としてe-learningの活用を大学全体で推進し、その効果をアンケートやインタビュー調査等をもとにした分析・考察を通して検証するものである。特に、e-learning推進の過程を「導入」「普及」「定着」の三段階に分け、各段階における独自の取り組みについて研究を行っている。それらの取り組みの成果として、インタビューの回答等に現れた教員の意識改革についての考察を通じて、e-learning推進がFD活動を促進させる一要因となっていることを明らかにしている。本研究は、論文として国際学会（教育メディア学会/ICOME2012）にて発表をしている（1件）。

さらに、教職員の能力開発に関わるSDコーディネーター（SDC）養成等の事例報告を国内学会にて発表している（2件）

今後は、教育改革・業務変革時における教職員の意識変容に関わる調査並びに効果検証等を行っていききたい。

●学生能力開発における成長過程に関わる研究

初年次教育や学生リーダーシップに関する研究を進めている。

初年次教育に関する研究では、実践対象校で初年次教育科目として開講している新入生セミナーを通じて、学習者の学ぶ姿勢を育成しているかどうかの効果検証及び調査項目の提案を行っている。その基礎となる調査項目の着眼点をパブリッシュの「学習経験の要因モデル」の学習経験のレベルを左右する要因から探っていく。具体的には、学習状況に関わる要因と学習者個人に関わる要因があり、これらの要因によって、学習経験の質が変化すると捉えている。その中で、「学習者個人に関わる4要因」を基盤に調査項目を立案・調査・実施した結果を報告している。本研究は、国内学会（日本教育工学会第28回全国大会講演論文集）に発表している。

また、「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する研究」に関しては一つの経験から学び次の行動へつなげる小さな「学びのサイクル」を支援するだけでなく、個々人に適した次のステージへと誘うことで螺旋状に発達する大きな「学びのサイクル」を支援することをねらいとしている。また、学生のニーズや発達段階に応じた適切で継続的な支援を可能とするために、職員自身が学生の活動期間中又は活動終了後において自己の学生への関わり方等について省察を行う他、学生指導・支援に求められる資質能力や手法を獲得するための研修を継続的に受講すること等を通して学生とは異なる「自転」での学びのサイクルを回していく。学生、教職員の2つの学びのサイクルについて理論を用いながら解説し、それら2つのサイクルの有効性について報告するものである。本研究は、研究グループの一員として、国内学会（大学教育学会）での発表をした。

さらに「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」の研究を進めている。学生のリーダーシップを測定するために、米国で開発された「社会的責任リーダーシップ・スケール改訂版2（SRSL-R2, Dugan, 2006）」を活用し、学生の「リーダーシップ評価指標」策定に関する取り組みに着目し、評価指標の理論的枠組み及び策定プロセスについて考察を行っている。本研究は、研究グループの一員として、国内学会（大学教育学会）での発表をした。

今後は、学生が成長する過程において、どのような環境・状況等を体験する中で、成長のステップを踏んでいくのかを明らかにするとともに、普遍化し、成長過程モデルとして提示していききたい。

●インストラクショナルデザイン（ID）手法を活用した、効果的な授業方法（ICTを活用した授業改善・授業コンサルテーション）に関する研究

本研究は、FD活動を全学的に普及させるため、FD活動の取り組みを紹介するポスターを作成し、1年中活用できるポスターとして、学年暦情報も同時に掲載するカレンダーを作成した。全教員の研究室及び学内各所に掲示され続けることで、FDイベントや研修会参加、授業コンサルテーションサービス等を活用してもらうことを促進することが目的である。それだけではなく、毎年授業支援のテーマ内容を変更し、教員の興味関心・探究心を喚起させるものとして作成している。今回は、アクティブラーニングをテーマに「学習動機を高める6つのコツ」と称して、インストラクショナル・デザイン（ID）の代表的モデルのひとつである学習意欲動機づけのためのARCS動機づけモデルを活用し、Attention（注意）・Relevance（関連性）・Confidence（自信）・Satisfaction（満足感）の4要素から6つのティップスを抽出し、FDカレンダーに掲載している。本研究では、取り組みの要素をまとめ、普及要因に関する考察を行っている。全教員への普及に関する取り組みとして、実践対象校の実践事例を紹介している。本研究は、研究報告として、熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告集に掲載・発表している（1本）。

今後は、ICTを活用した授業や教材制作の取り組みを通じて、教育効果を検証するとともに実践報告として、広く高等教育機関にモデル事例として知見をまとめ、提示していききたい。

●組織開発・組織変革に関わる研究

本研究では、私立大学での全学的なe-learning推進の実践研究成果を踏まえて、国立大学法人でのe-learning推進の体制整備を行い、その経験から設置主体の種別にかかわらず、e-learningに関心のある教員に向けて具体的な授業改善の方法を提示することが取り組みの初期段階として効果的であることが再確認された。また、実践対象校のe-learning普

及に革新的な変化をもたらす組織の構築及び効果的運用の必要性を明らかにする研究である。本研究は、e-learningを活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要としての組織づくりと体制、取組内容について、運用と成果をまとめるとともに、今後の展望について、報告を行っている。本研究は、研究報告として、熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告集に掲載・発表している（1本）。

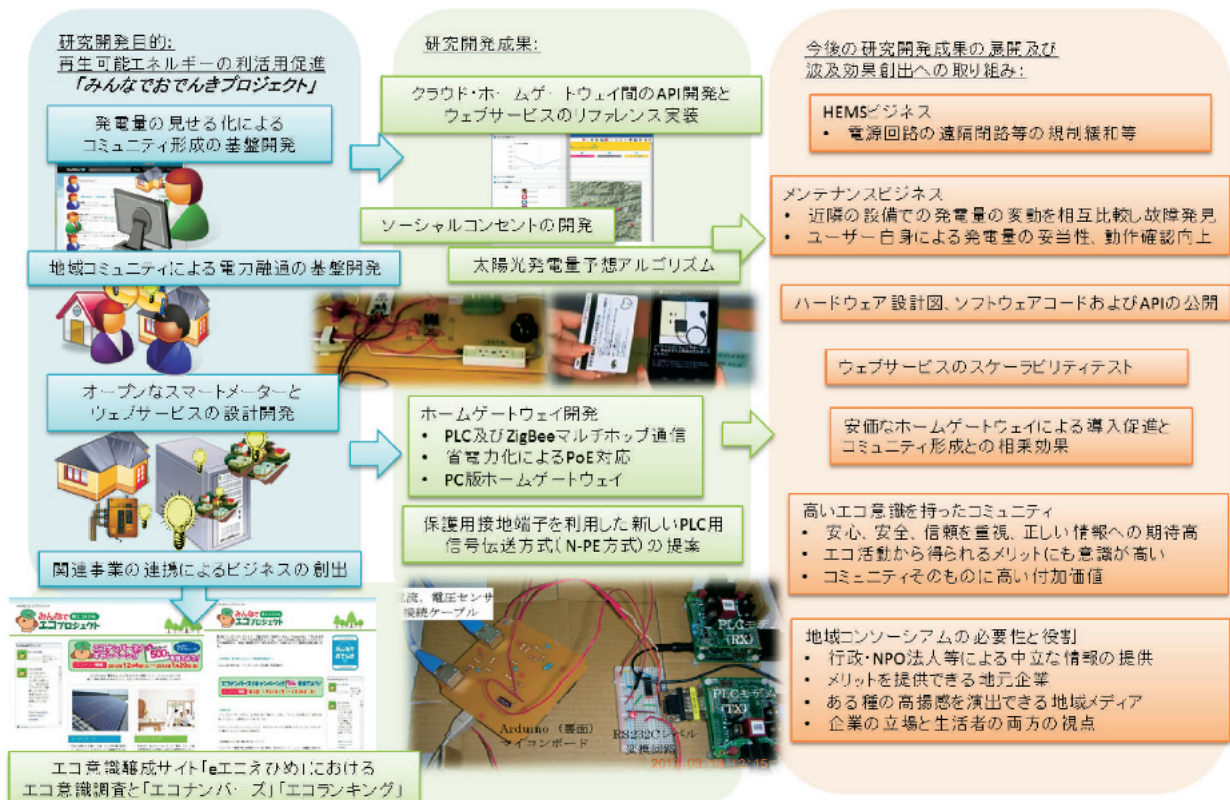
また、ブレンディッド型授業に取り組み始めた教員へのヒアリング調査を実施している。その結果、業務及び授業のマネジメントを行うことのできる専門性の高い支援部門の確立の重要性を説き、e-learningに対する教員の意識変容を考察している。本研究は、国内学会（日本教育メディア学会）において、発表をしている（1本）。

今後は、組織マネジメントや組織変革に関わる教職員へのアンケートやヒアリング調査を行い、検証を加え、その要因をまとめ、広く高等教育機関に知見として提示していきたい。

佐々木隆志

●スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進に関する取り組み

現在、持続可能な再生可能エネルギーの利用方法として、主に商用送電網に依存した余剰電力買い取りの仕組みが用いられている。しかし送電網に流入する電力の大幅な増減は系統安定を損なうことが予想され、また災害時には送電網の障害も想定されるため、商用送電網に依存しない地産地消型のエネルギー利用についての研究が求められている。本研究では再生可能エネルギーの利用や環境負荷軽減に関心のある人々のコミュニティ形成にも役立つようSNSを利用したコミュニティ及び地域単位での太陽光発電量の可視化と、そのために必要なホームゲートウェイ、加えて災害時にかぎらず平常時においても役立つ電力地産地消の仕組みであるソーシャルコンセントを開発した。一般に防災は自助、共助、公助の組み合わせであるといわれるが、エネルギー利用に関しては自家発電による自助相当部分、商用送電網による公助相当部分しか存在せず、エネルギー共助についての取り組みが欠けていた。本研究はそのための一つの方法を提案するものである。本研究は総務省戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）の平成23年度新規課題「スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進基盤に関する研究開発（2年間）」として取り組んだ。なお、成果については平成25年6月にえひめITフェアで発表した。



(1)沿革

- 昭和41年3月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
- 昭和50年2月 愛媛大学計算機室に名称変更
- 昭和50年3月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
- 昭和57年7月 情報処理センター発足
- 昭和57年11月 情報処理センター建物完成（835.3平方メートル）
- 昭和58年2月 FACOM M180IIADシステム（主記憶：12MB）導入
- 昭和58年3月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
- 昭和60年3月 DDX加入
- 昭和61年11月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
- 昭和62年4月 FACOM M360APシステムに更新
- 平成2年1月 学術情報センターノード運用開始，DDX解除
- 平成2年10月 JUNET電子メールサービスの開始
- 平成3年2月 FACOM M770/6システム（主記憶：64MB）導入
- 平成4年2月 JAITに接続
- 平成4年5月 総合情報処理センター発足
- 平成5年12月 SINETノード設置
- 平成6年2月 FACOM M1600/6システム（主記憶：128MB），CONVEX C3440CTシステム導入
- 平成6年3月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
- 平成9年11月 ATMネットワークシステムの構築
- 平成10年2月 S-7/7000Uモデル500，FACOM M1600/6システム導入
- 平成12年2月 総合情報処理センター建物完成（1,871平方メートル）
- 平成13年3月 学内ギガネットワークシステムの構築
- 平成14年2月 PRIMPOWER600，パソコンシステム導入
- 平成15年4月 総合情報メディアセンター発足
- 平成15年9月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
- 平成18年2月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成19年6月 SINET3本格運用
- 平成22年3月 構内光ケーブル張替
- 平成22年10月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成23年3月 SINET4運用
- 平成23年4月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更

(2)情報基盤システム

- システム構成概念

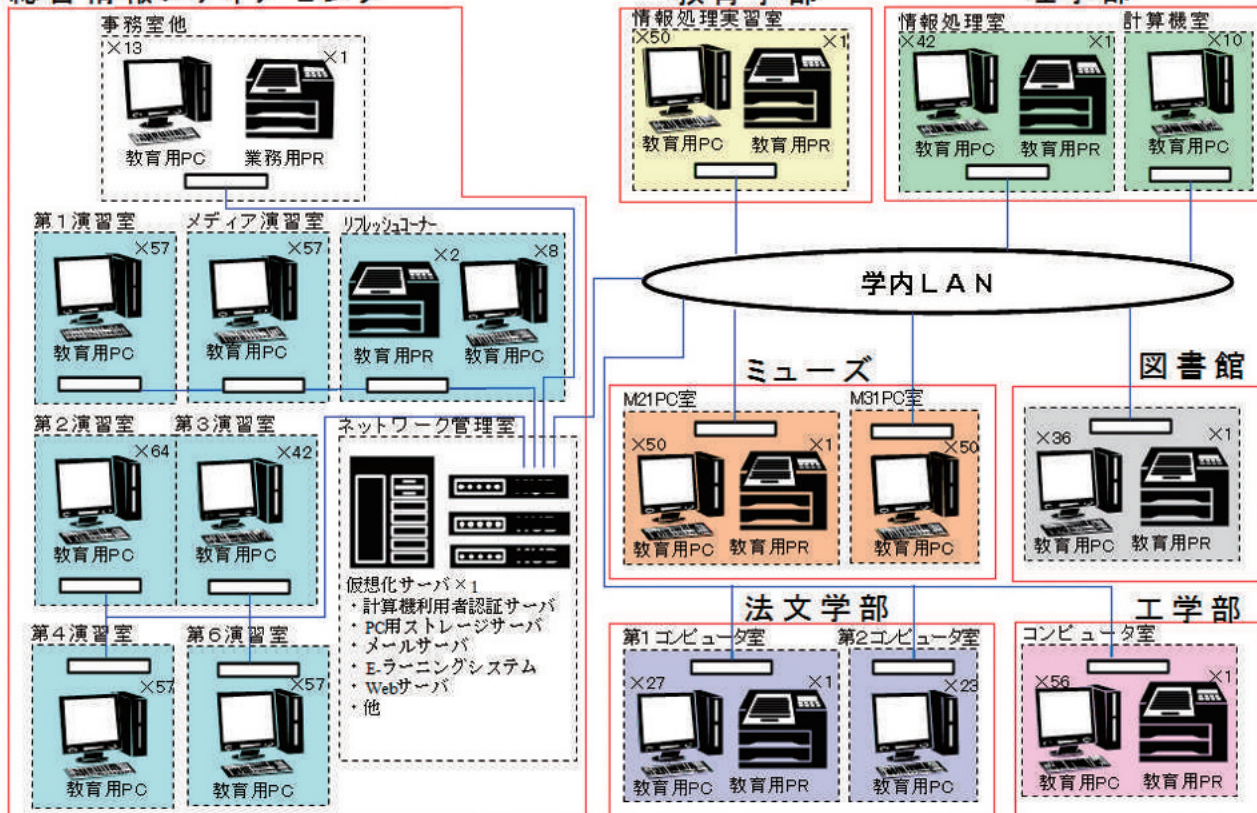
平成25年度のシステム概念は次のとおりです。

5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

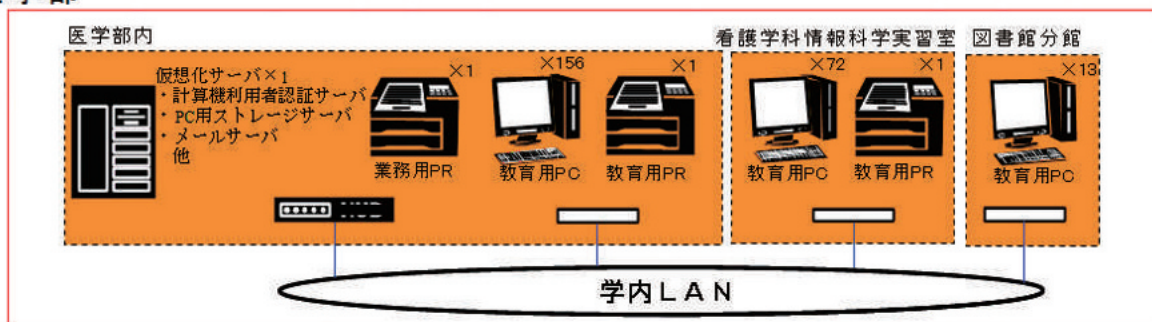
<城北地区>

総合情報メディアセンター



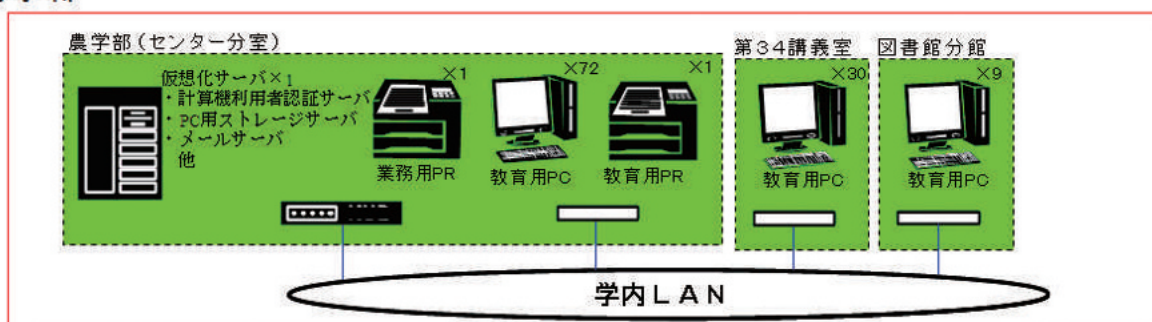
<重信地区>

医学部



<樽味地区>

農学部



● ソフトウェア一覧

各演習室で使用可能なアプリケーションソフトの、主な機能は次のとおりです。

【商用ソフトウェア】

一次のソフトウェアは、スタートメニュー内の各ソフトウェア名より使用可能です。

・ ArcGIS

地理・位置情報や関連情報を統合して、状況把握・分析、意思決定、問題解決、情報伝達を行うための情報活用システムです。

・ Microsoft Office Professional Plus 2010

ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、電子メール管理ツール (Outlook)、プレゼンテーションドキュメント編集ソフト (PowerPoint)、DTPソフト (Publisher)、データベース管理ソフト (Access)、XMLオーサリングツール (InfoPath)、インスタントメッセージングツール (Communicator) の使用が可能です。

・ Microsoft Visual Studio 2010

設計から、開発、テスト、配置までアプリケーションライフサイクルを広範囲にカバーし、Windows 7を含めた最新のプラットフォームに対応するビジュアルデザイナーを利用して、開発者の自由なアイデアを形にすることができる統合開発環境が提供されます。

・ Roxio Creator LJB

CD-Rなどの対応している媒体にデータを書き込むことができるライティングソフトです。

一次のソフトウェアは、一部の限られた演習室で使用可能です。

・ Adobe Illustrator：メディアセンター 第1演習室

高度な描画ツール、表現を可能にするブラシツール、作業時間を短縮する機能、Adobe CS Liveオンラインサービスとの連携などを兼ね備えたグラフィックソフトウェアです。

・ Adobe Premiere Elements：メディアセンター 第1演習室

撮影したビデオクリップを読み込んで整理し、好みの方法で編集できるだけでなく、特殊効果やサウンド、テキスト、映画のようなモーションメニューで演出上げることが可能なビデオ編集ソフトウェアです。

・ ホームページビルダー：農学部

ホームページ作成はもちろん、携帯用サイト、画像編集や動画編集まで幅広くこなすホームページ作成ソフトです。

・ AutoCAD：工学部 講義棟 4Fコンピュータ室

2D CAD (2D：二次元＝平面) 業界標準であるDWGファイルを扱う、詳細な図面を作成するための製図用ソフトウェアです。

・ SolidWorks：メディアセンター各演習室、工学部 講義棟 4Fコンピュータ室

3D CAD (3D：三次元＝立体)、設計検証、製品データ管理ソフトウェアに加えて、製品ドキュメント作成ソフトウェアまで幅広くカバーした製図用ソフトウェアです。

・ PASW：医学部 各演習室

統計解析・データ分析ソフトウェアです。豊富な分析メニューとグラフ機能により、高度な分析と分かりやすい結果を得ることが可能です。

【フリーソフトウェア】

一次のフリーソフトウェアは、スタートメニュー内のFree soft配下より使用可能です。

・ Adobe Reader

電子文書共有のためのPDF文書を開いて、表示、印刷、検索などを行える、PDF閲覧ツールです。

・ eclipse

オープンソースな統合開発環境です。

・ MIKATYPE

学校教育用に作成された、タッチタイプの練習ソフトです。

・ Symyx Draw

学術目的又は自宅での使用を対象とした化学構造描画ツールです。

・ 一太郎ビューア

一太郎文書及びXMLテンプレート文書を表示・印刷することができます。

- ・花子ビューア
花子文書をスライド表示・印刷することができます。
- ・3D AVS Player
AVS/ExpressやMicroAVSの可視化結果を4Dアニメーション（再生しながら視点変更が可能）で再生できるビューアです。
- ・ChemSketch
分子構造式を簡単に描くことができるソフトです。
- ・ActiveBasic 5.0
N88-BASIC互換プログラミング言語（フリーウェア）です。
- ・Cygwin
Unixで頻繁に使用されるシェルやコマンドなどのプログラムをWindows上でソースコードからコンパイルできるようにしたものです。
- ・GIMP
ビットマップグラフィック編集・加工ソフトウェアです。
- ・Google Earth
Google社が無料で配布しているバーチャル地球儀ソフトです。
- ・Jw_cad
2次元汎用CADアプリケーションソフトウェアです。
- ・MANDARA
表計算ソフト上の地域統計データを地図化することに適したソフトウェアです。
- ・Microsoft WSE
Microsoftが無償で配布している、Visual Studio.NETを使う開発者向けのWebサービス設計構築支援ツールです。
- ・Mozilla Firefox
Webブラウザです。
- ・NoEditor
テキストエディタです。
- ・OpenOffice
オープンソースな無料総合オフィスソフトウェアです。ワープロソフトや表計算ソフトなど、Microsoft Officeに準じたオフィスソフトを利用できます。
- ・QuickTime Player
アップル社が無料で配布している、QuickTimeフォーマット（.mov）やMP4フォーマット（.mp4）などの動画が再生可能なメディアプレーヤーです。
- ・R
統計解析向けプログラミング言語（フリーウェア）です。
- ・RealPlayer SP
リアルネットワークス社が無料で配布している、RealAudioフォーマット（.ra, .rm）や、RealVideoフォーマット（.rm, .rv, .rmvb）に対応したメディアプレーヤーです。
- ・セカンドライフビューア
リンデンラボ（Linden Lab）社が運営する、メタバース（インターネット上に存在する電子三次元空間＝バーチャル世界）にアクセスするためのソフトです。
- ・WinMOPAC
半経験的分子軌道計算プログラムです。Windows上で、分子を構築し、MOPACによる計算を行い、その計算結果をグラフィカルに表示することができます。
- ・WinROOF
画像処理・画像計測・データ処理を統合したソフトです。医学、工学、薬学、材料分析など幅広い分野で利用されています。計測結果を表計算ソフトに転送するといったデータの移行性にすぐれ、効率よくデータ処理を行うことができます。
- ・カシミール3D
3D地図ナビゲータです。地図ブラウザ機能を基本に、風景CG作成機能、GPSデータビューワ・編集機能、ムービ

ー作成機能、山岳展望機能などの多彩な機能を搭載しています。国土地理院の数値地図を始め、世界中の地図・地形データ、衛星・航空写真を使用できます。

ー次のフリーソフトウェアは、スタートメニュー以外の方法により使用可能なものです。

・Primo PDF

PDF文書を作成できるフリーウェアソフトです。ワープロソフトやテキストエディタ、表計算ソフトなどで作成した文書の印刷メニューより、プリンタの代わりにPrimoPDFを選択することで、簡単にPDF文書が作成できます。

・Borland C++

汎用プログラミング言語であるC++（シーplusplus）をコンパイル（コンピュータ上で直接実行可能な機械語プログラムに変換する）するための統合開発環境です。コマンドプロンプト上で利用可能です。

・Open Watcom FORTRAN

プログラミング言語であるFORTRAN77をコンパイルするための統合開発環境です。コマンドプロンプト上で利用可能です。また、各種ツール類は、スタートメニューのFree soft内-Open Watcom FORTRAN配下より利用可能です。

・pLaTEX（ピーラテフ）

テキストファイルであるソースコードを入力として処理することでDVIやPDFなどの表示形式を出力として作成できます。高品質で自由度の高い組版処理能力（分数文字などの編集）が可能です。コマンドプロンプト上で利用可能です。

ー次のフリーソフトウェアは、一部の限られた演習室で使用可能です。

・SPBS：医学部 各演習室

日本語対話方式を採用することにより統計ソフトウェア自体の操作が簡単であることに加え、正規性検定、有意差検定、相関分析、回帰分析等の基本的な統計解析の結果を図示できることを主たる特徴とする統計解析・データ分析ソフトウェアです。

・NDPビューア：医学部 各演習室

浜松ホトニクス社のバーチャルスライドスキャナによるヴァーチャルスライドを閲覧するためのビューアです。Internet Explorerを利用しての閲覧となります。

・Skype：法文学部 第2コンピュータ室（6台）

世界中のSkypeユーザと音声通話やテレビ電話が可能なコミュニケーションツールです。

●ネットワーク概念

平成25年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

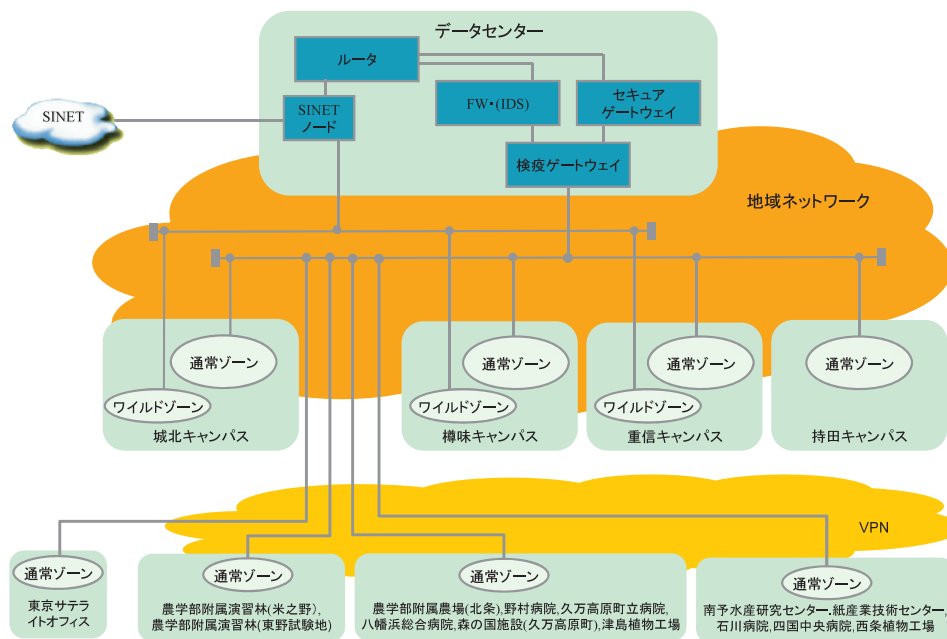


図 ネットワーク概念

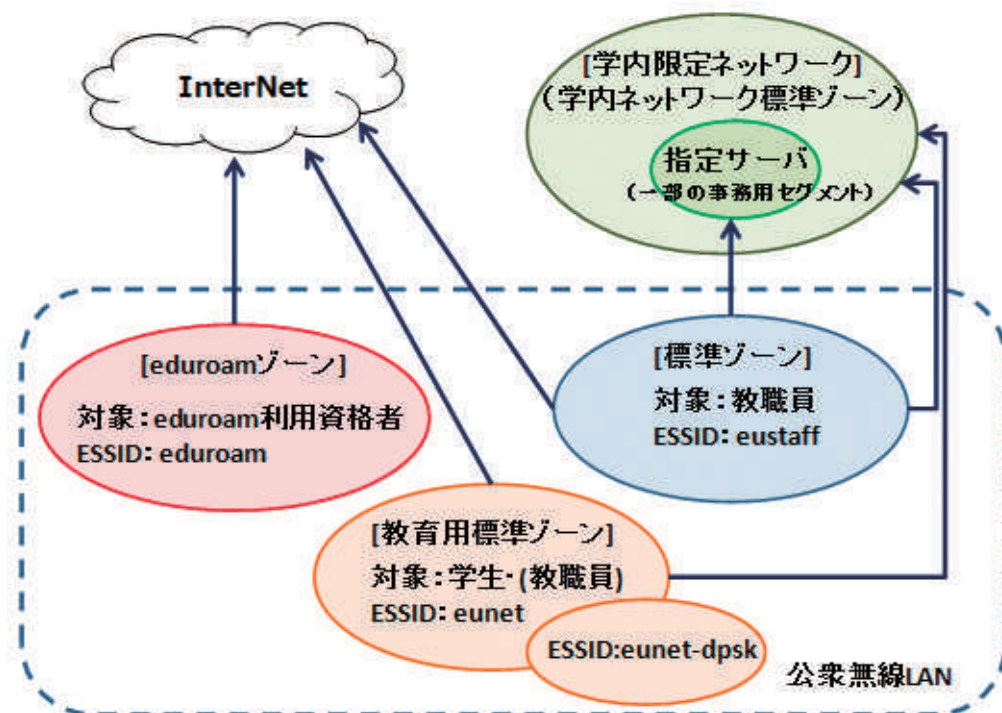
(3) 事業実績

●愛媛大学無線ネットワークサービス

平成25年6月に、学生が講義室・教室をはじめ学習・教育を行う可能性のあるパブリックスペース等でも無線ネットワーク利用ができるようにするため、通信事業者の提供する「愛媛CATVワイヤレスネットワーク」に相乗りする形で、無線ネットワークを整備しました。

このネットワークには、愛媛大学アカウント及びeduroamアカウントでアクセスすることができます。これらに加えて、短期留学などで一時的にネットワークを利用したい方のために別途アカウントを発行いたします。

利用者の資格により、次の3つの無線ネットワークゾーンに接続されるようになります。



●システム関連一覧

平成25年度中に整備した情報基盤システム関連は次のとおりです。

- ・愛媛大学無線ネットワークサービス開始（6月）
- ・Webホスティング用システムPlesk Panel仮運用（6月）
- ・eラーニング配信システム導入（8月）
- ・キャンパス間ネットワーク回線増強（8月）
- ・愛媛大学認証基盤システム導入（12月）
- ・愛媛大学クラウドメールサービス導入（3月）

●施設整備関連一覧

平成25年度中に整備した施設は次のとおりです。

- ・演習室プロジェクタ設備更新（8月）
- ・メディアホールプロジェクタ設備更新（1月）
- ・メディア実験室を教員研究室に変更（3月）

(4) 利用状況

平成25年度のセンター利用状況は次のとおりです。

● 情報基盤システム

申請種別	登録数
センターメール	39
パソコン	157
セキュアゲートウェイ	255
認証ゲートウェイ	399
メールサーバ（部局単位）	6
LMS利用アカウント	277
LMS利用（コース登録）	410

● 夜間開放・休日開放

夜間開放は、毎週月～金の17:00～21:00、休日開放（2007年9月から実施）は、土・日・祝日の10:00～17:00に第1演習室を開放しています。（ただし、夏季休暇及び冬季休暇中は除く）

年 月	夜間開放利用者数	休日開放利用者数
2013年 4 月	326人	104人
2013年 5 月	927人	162人
2013年 6 月	1,112人	501人
2013年 7 月	1,405人	675人
2013年 8 月	－	－
2013年 9 月	11人	104人
2013年10月	732人	170人
2013年11月	799人	186人
2013年12月	638人	150人
2014年 1 月	795人	101人
2014年 2 月	273人	207人
2014年 3 月	－	－

● メディアホール

年 月	利用件数	年 月	利用件数
2013年 4 月	2	2013年10月	20
2013年 5 月	13	2013年11月	15
2013年 6 月	15	2013年12月	17
2013年 7 月	27	2014年 1 月	10
2013年 8 月	13	2014年 2 月	17
2013年 9 月	20	2014年 3 月	18

5. 業務関連

(4) 利用状況

● 演習室

平成25年度前期演習室予定表

演習室使用予定表 平成25年度・前期

曜日	時限	8:30~10:00	10:20~11:50	12:40~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10	
		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>		現代社会の諸問題 (機械, 電電, 環建, 農2) 中村 悦夫	設計製図 (工・3年) 高橋 学					
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部) 中川 祐治	現代社会の諸問題 折戸 洋子						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			情報リテラシー入門 (農学部) 野口 一人					
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部) 大塚 寛				夜間開放 (17:00~21:00) <夏期休室中, 冬季休室中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部) 谷 弘幸		情報リテラシー入門 (農学部) 堤 三佳					
火	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門			フィールドワーク (法・総政2年) 谷本 貴之	工学実践英語 (工 2年) 有光 隆			
	第4演習室 (4階)<56席>	(工・機械, 電電, 環建) 二宮 崇		情報リテラシー入門 (医, 看護, SSC) 平田 浩一	情報リテラシー入門 (教育) 平田 浩一	工学実践英語 (工・機械 2年) 柴田 諒			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>								
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (工・機械, 電電, 環建) 八木 秀次		情報リテラシー入門 (医, 看護, SSC) 岡本 好弘	情報リテラシー入門 (教育) 岡野 大	夜間開放 (17:00~21:00) <夏期休室中, 冬季休室中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (工・機械, 電電, 環建) 大賀 水田生		プロジェクト研究II (教育3年) 和田 武	情報リテラシー入門 (教育) 阿萬 裕久				
水	第6演習室 (4階)<56席>			リーガルサーチ (法・総政2年) 上山 友一					
	第4演習室 (4階)<56席>								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			情報リテラシー入門 (法・人文) 中川 裕治	情報と現代社会 (教育, 理, I.I, 農2) 植上 喜信				
	第1演習室 (2階)<56席>			情報リテラシー入門 (法・人文) 木下 清二		夜間開放 (17:00~21:00) <夏期休室中, 冬季休室中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>		6/19,26	新人学生セミナー (法 1年) 平藤 茂	データベース論 (教育) 和田 武				
木	第6演習室 (4階)<56席>	現代と科学技術 (法文, 理 I) 都築 伸二	リーガルサーチ (法・総政2年) 上山 友一			7/25	現代と科学技術 (法・夜間主1) 森 慎之助		
	第4演習室 (4階)<56席>			統計セミナー 系統系統計協会			7/25		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	コミュニケーション英語I/英語II/英語III/英語IV							
	第1演習室 (2階)<56席>						夜間開放 (17:00~21:00) <夏期休室中, 冬季休室中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>						7/25		
金	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門		情報リテラシー入門				6/21	
	第4演習室 (4階)<56席>	(法・総合政策) 野口 一人			教員免許状更新講習				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			(工・能材, 応化, 情報) 黒田 久泰	社会統計学 (法・総政2~4年) 佐藤 智秋	社会統計学 (法・総政2~4年) 佐藤 智秋	情報リテラシー入門 (法・夜間主) 佐々木 陸志		
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (法・総合政策) 和田 武				夜間開放 (17:00~21:00) <夏期休室中, 冬季休室中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (法・総合政策) 伊福 誠		情報リテラシー入門 (工・情報) 甲斐 博	データベース演習 (教育) 和田 武			情報リテラシー入門 (法・夜間主) 二神 透	

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
 * 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

5. 業務関連

(4) 利用状況

平成25年度後期演習室使用予定表

演習室使用予定表 平成25年度・後期

曜日	時間	演習室							
		8:30~10:00 1時限	10:20~11:50 2時限	12:40~14:10 3時限	14:30~16:00 4時限	16:20~17:50 5時限	18:00~19:30 6時限	19:40~21:10 7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>			情報処理 (工・環境) 井内 輝光					
	第4演習室 (4階)<56席>		システムデザイン (工 3年) 甲斐 舞	情報処理 (工・環境) 伊藤 誠					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		コンピュータ基礎 (理・数学 2年) 中川 裕治	社会力入門 (共通教育)					
	第1演習室 (2階)<56席>			社会力入門 (共通教育) 野本 ひさ			夜 間 講 義 (17:00 ~ 21:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
火	第6演習室 (4階)<56席>	社会力入門 (共通教育) 野本 ひさ		環境建設工学実験II (工・環境 3年) 金 邦彰	現代と科学技術 (総政、理、SSC 1年) 小林 真也				
	第4演習室 (4階)<56席>			プログラミング言語 (工・電気電子 1年) 松本 真山貴	プログラミング言語 柴田 龍				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>								
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 講 義 (17:00 ~ 21:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
水	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>		スポーツ情報処理 (教育 1年) 田中 穂人		社会統計学 (法・総政 2~4年) 佐藤 晋秋				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>								
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 講 義 (17:00 ~ 21:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>				プログラミング演習 I (教育 1年) 和田 武				
木	第6演習室 (4階)<56席>	社会力入門 (共通教育) 野本 ひさ		大規模火災延焼シミュレーション講習会 二神 遼		1/23,2/13			
	第4演習室 (4階)<56席>								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			CAD実習 (工・機械工学科 2年) 八木 秀次		1/23,2/13			
	第1演習室 (2階)<56席>			大規模火災延焼シミュレーション講習会 二神 遼			夜 間 講 義 (17:00 ~ 21:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			人文情報処理演習A (法文 2年) 和田 武	大規模火災延焼シミュレーション講習会 二神 遼		1/23,2/13		
金	第6演習室 (4階)<56席>		技術英語 (工 3年) 野村 信博						
	第4演習室 (4階)<56席>	総合英新A (工・能材応化) 長崎 睦子		現代と科学技術 (人文、教育、工 1年) 羽藤 賢治					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				創設設計製作 (工 3年) 堀 三生				
	第1演習室 (2階)<56席>		地理学演習II (法文 2~4年) 阪野 章彦			夜 間 講 義 (17:00 ~ 21:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>				プログラミング言語 I (教育 1年) 和田 武				

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	時間	演習室		
		13:30~15:00 1時限	15:10~16:40 2時限	16:50~18:20 3時限
土	第6演習室 (4階)<55席>			
	第4演習室 (4階)<56席>			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		生活科学入門 (法文夜間 1年) 古賀 理和	
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 講 義 (10:00 ~ 17:00) <small><夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度初(2月中旬~4月上旬)は休止></small>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			

(5) センターイベント

● eラーニング入門

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成25年9月24日(火) 16:00～18:00
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター2F メディア演習室
対 象：授業担当教職員

● 情報セキュリティセミナー

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成25年9月24日(火) 14:00～16:15
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター1F メディアホール
対 象：教職員

● Moodle 2 利用説明会

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成25年9月18日(水) 14:00～15:00
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター2F メディア演習室
対 象：授業担当教職員

● キャンパスIT授業

主 催：愛媛大学
日 時：平成25年9月11日(水) 13:00～16:15
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター
対 象：高校生

● Moodle 2 利用説明会

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成26年3月25日(火) 14:00～16:00
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター2F メディア演習室
対 象：授業担当教職員

(6) 各種委員会

【センター会議】

平成25年度 第1回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成25年6月26日(水) 10:30～11:20
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 大橋センター長、塚本委員、観音委員、大塚委員、木村委員、二宮委員、羽藤委員、中川委員、野口委員、川原委員、和田委員、佐々木委員、仲道委員、石田委員

会議を開始するにあたって、大橋センター長から総合情報メディアセンターの本年度の課題について、説明があり、各委員の協力、支援を要請した。

続いて、各委員から自己紹介があった。

(審議事項)

- 1 平成24年度決算(案)及び平成25年度予算(案)について(石田委員、資料1)
石田委員から資料1に基づき説明があり、審議の結果、平成24年度決算(案)及び平成25年度予算(案)について、原案どおり了承された。
- 2 利用負担金について(石田委員、資料2)
石田委員から資料2に基づき、(1)基本料金部分をA、B、Cの3区分に変更したこと、(2)従量料金について1人当たり200円の定額とするものの2点の変更について説明があり、審議の結果、平成25年度全学利用負担金については、原案どおり了承された。
- 3 情報基盤システムの利用料金について(石田委員、資料3)
石田委員から資料3に基づき、現状で徴収している情報基盤システム利用時のパソコン及びセキュアゲートウェイ登録料を廃止する旨説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。
- 4 平成25年度年度計画及び取組内容について(石田委員、資料4)
石田委員から資料4に基づき説明があり、審議の結果、平成25年度の年度計画に基づく取組内容が原案どおり了承された。
- 5 その他 なし

(報告事項)

- 1 国立大学改革強化推進補助金「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」によるeラーニング配信システム・ネットワーク環境増強設備の実施について(川原委員、資料5)
川原委員から資料5に基づき、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業の補助金によりeラーニング配信システム・ネットワーク環境の増強を実施する旨の報告があった。
- 2 愛媛大学無線ネットワークサービス開始について(川原委員、資料6)
川原委員から資料6に基づき、愛媛大学無線ネットワークサービスを6月12日から開始した旨の報告があった。
- 3 次期情報基盤システムについて(川原委員、資料7)
川原委員から資料7に基づき、次期情報基盤システム導入の進捗状況について報告があった。

平成25年度 第2回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成25年9月4日(水) 10:35～11:35
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 塚本委員、観音委員、大塚委員、木村委員、黒田准教授(二宮委員代理)、菅原教授(羽藤委員代理)、野口委員、川原委員、和田委員、佐々木委員
欠席者 中川委員、仲道委員
途中出席 大橋センター長、石田委員

大橋センター長が学長との打合せが急きょ入ったため、川原委員を議長代理として、報告事項から進めることとした。

(報告事項)

- 1 eラーニング配信システム・ネットワーク環境設備増強の実施について(川原委員、資料6)
資料6に基づき国立大学改革強化推進補助金「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」により、実施。9月中に設備の増強が実施される旨報告があった。

- 2 メディア実験室の改修について（村上TL，資料7）
資料7に基づき，四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業のために採用される教員の研究室へ改修する旨報告があった。なお，経費は大学本部から補填されることとなっていることも併せて報告した。
- 3 情報セキュリティセミナーの開催について（川原委員，資料8）
資料8に基づき，9月24日(火)に本年度の情報セキュリティセミナーを開催する旨報告があり，各委員においてもぜひ参加をお願いしたいとの要請があった。
- 4 WindowsXPに関する周知について（村上TL，資料9）
資料9に基づき，WindowsXP及びOffice2003のサポートが2014年4月で終了する旨，8月29日付けで各部局情報セキュリティ責任者へ通知したので，各委員からも更新を進めるよう配慮願いたい旨要請があった。なお，経理調達課からも通知がある旨報告した。
- 5 センター会議のペーパーレス化について（村上TL）
このことについて，センター長から提起があり，現在事務で検討中である旨報告があった。

大橋センター長と学長との打合せが長引いているため，このまま川原委員を議長代理として，審議事項に進むこととした。

審議に入る前に，開催通知の審議事項2「テニユア資格審査基準の申し合わせ」を取り止めたこと，及びその他として「総合情報メディアセンターの兼務教員の委嘱」を加えることを報告し，了承を得た。

(審議事項)

- 1 愛媛大学総合情報メディアセンター規則の一部改正について（村上TL，資料1）
資料1に基づき説明があり，審議の結果，愛媛大学総合情報メディアセンター規則の一部改正について，原案どおり了承された。
- 2 愛媛大学総合情報メディアセンター教員の配置換えについて（村上TL，川原委員，資料2）
資料2に基づき，10月1日付けで佐々木助教が経営情報分析室へ配置換えとなる旨の報告があり，了承された。
- 3 愛媛大学総合情報メディアセンター教員の選考について（村上TL，資料3）
資料3に基づき，学長裁量定員を使った公募によらない選考を実施中であり，10月1日付けの任用予定ですすめている旨の説明があり，了承された。
- 4 eラーニングコンテンツ取扱要領(案)等について（瀧本SL，資料4）
資料4に基づき説明があり，種々審議の結果，議論となった3点について，教育デザイン室で検討・明確にし，本審議事項については各委員へ再度，持ち回りで諮ることとしたい旨説明があり，了承された。
- 5 その他
総合情報メディアセンター兼務職員の委嘱について（石田委員，資料5）
資料5に基づき，10月1日付けで工学部の田中教授，佐々木助教をメディアセンターの兼務を委嘱することとしたい旨報告があり，了承された。

平成25年度 第3回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成25年11月12日(火) 13:00～14:00
2. 場 所 総合情報メディアセンター会議室
3. 出席者 塚本委員，観音委員，大塚委員，二宮委員，羽藤委員，中川委員，野口委員，川原委員，和田委員，阿萬委員，佐々木委員，仲道委員，石田委員
- 欠席者 大橋センター長，木村委員

事務課長から審議に入る前に，大橋センター長が所要で出席できないため，代理として指名されている中川委員が代理で議長を行うことを報告し，了承を得た。

続いて，中川議長から，10月1日付けで工学部より本センターへ所属替えのあった阿萬准教授の紹介があり，本人から挨拶があった。

また，続いて，宮内技術専門職員から，ペーパーレス会議への進捗状況の報告があり，デモンストレーションを行った。

(審議事項)

- 1 平成25年度年度計画にかかる中間報告について（事務課長，資料1）
事務課長から資料1により説明があり，審議の結果，原案どおり了承された。
- 2 平成26年度年度計画について（事務課長，資料2）
事務課長から資料2により説明があり，審議の結果，原案どおり了承された。
- 3 認証基盤システムの構築について（事務課長，川原委員，資料3）
事務課長から資料3により説明があった。加えて，川原委員より本件についてはかなり進展しており，今年中

に完成する旨の補足説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

- 4 全学メールのクラウド化について（事務課長，中川委員，資料4）
事務課長から資料4により説明があった。加えて，中川委員より本件についての補足説明があり，今後，学術研究会議，役員会等へ諮る旨の報告があり，種々審議の結果，原案どおり了承された。
- 5 ホスティングサービス利用料金について（川原委員，資料5）
川原委員から資料5により説明があり，種々審議の結果，原案どおり了承された。
- 6 その他
特になし

（報告事項）

- 1 次期情報基盤システムの進捗状況について（事務課長，資料6）
事務課長から資料6により報告があった。
- 2 愛媛大学総合情報メディアセンター教員の選考について（事務課長，資料7）
事務課長から資料7により報告があった。

平成25年度 第4回総合情報メディアセンター会議議事要旨

1. 日 時 平成26年2月
2. 場 所 メール持ち回り

（審議事項）

- 1 平成25年度年度計画実績報告書(案)について（資料1）
- 2 平成26年度年度計画(案)について（資料2）
- 3 愛媛大学全学クラウドメールサービス利用規程(案)について（資料3）

上記，審議事項1から3まで全て了承された。（15名中1名返信がないため，1名保留とし14名の可。）

【教員コア会議】

- ・平成25年5月23日(木) 平成25年度第1回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年7月4日(木) 平成25年度第2回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年8月28日(水) 平成25年度第3回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年10月3日(木) 平成25年度第4回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成25年11月27日(水) 平成25年度第5回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成26年2月14日(金) 平成25年度第6回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成26年3月19日(水) 平成25年度第7回総合情報メディアセンター教員コア会議

(7)センター規則

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

〔平成23年4月1日〕
規則第 24 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同利用の施設として、愛媛大学（以下「本学」という。）の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる教育研究部門を置く。

- (1) 情報基盤部門
- (2) 情報メディア教育部門
- (3) 学術情報システム部門

第2章 業務等

(業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 計算機システムに関すること。
- (2) ネットワークシステムに関すること。
- (3) 情報教育に関すること。
- (4) 学術研究支援に関すること。
- (5) キャンパス情報化に関すること。
- (6) eラーニングコンテンツの制作支援に関すること。
- (7) その他愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）の指示する業務

(組織)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター員
 - ア センターの専任教員
 - イ 本学の専任教員（アの者を除く。）若干人
 - ウ その他必要な職員
- 2 センター長候補者は、本学の専任の教授又は理事のうちから愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）が推薦し、学長が選考する。
- 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 センターの専任教員は、学術研究会議が推薦し、学長が選考する。
- 5 センター員のイの者は、センター長が推薦し、機構長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。
- 6 センター員のイの者の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第6条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター員は、センターの業務を処理する。

(教育デザイン室)

第6条の2 センターに、eラーニングコンテンツの研究・開発及び制作支援等を行うため、愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室（以下「教育デザイン室」という。）を置く。

2 教育デザイン室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第7条 センターに、第4条に規定する業務に関する企画立案等を行う部会を置く。

2 部会に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

第3章 センター会議

(センター会議)

第8条 センターに、第4条に掲げる業務の運営に関する重要事項を審議するため、総合情報メディアセンター会議(以

下「センター会議」という。)を置く。

(組織)

第9条 センター会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター員 若干人
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 総合情報メディアセンター事務課長
- (5) その他特に必要と認めた本学の職員

2 前項第2号の委員は、センター長が指名する。

3 第1項第3号の委員は、当該教員の所属する学部の長の推薦に基づき、機構長が委嘱する。

4 第1項第5号の委員は、センター長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

5 第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第10条 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

2 議長は、センター会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 センター会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

第4章 利用等

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

2 分室に関する規程は、別に定める。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部総合情報メディアセンター事務課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(その他)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 愛媛大学総合情報メディアセンター規則（平成16年規則第191号）は、廃止する。

3 愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会規程（平成16年規則第24号）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター分室規程

〔平成16年4月1日〕
〔規則第 192 号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター分室（以下「分室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(分室長)

第2条 分室に分室長を置く。

2 分室長は、当該分室が所在する学部の愛媛大学総合情報メディアセンター会議委員（以下「センター会議委員」という。）をもって充てる。

3 分室長の任期は、センター会議委員として任命された期間とし、再任を妨げない。

4 分室長は、愛媛大学総合情報メディアセンター長の指示に従い、当該分室の業務を処理する。

(委員会)

第3条 分室の円滑な運営を図るため、分室に分室の運営に関する委員会を置くことができる。

(雑則)

第4条 この規程に定めるもののほか、分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター利用規程

〔平成16年4月1日〕
〔規則第 193 号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第13条の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）が管理する計算機システム（以下「システム」という。）及びキャンパス情報ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者の資格)

第2条 システム及びネットワークを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 愛媛大学の職員、学生及び附属学校生徒
- (2) その他センター長が適当と認めた者

(システム利用の手続)

第3条 システムを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 前項の有効期限は、当該年度限りとする。

(ネットワーク利用の手続)

第4条 ネットワークを利用しようとする者は、所定の手続により、申請するものとする。

2 前項の有効期限は、ネットワーク利用が認められた者の資格が失われるまでとする。

(ポリシー等の遵守)

第5条 システム及びネットワークを利用する者は、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本方針、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本規則、国立大学法人愛媛大学情報システム運用・管理規程及び国立大学法人愛媛大学情報格付基準を遵守しなければならない。

(システム利用経費の負担)

第6条 利用に係る経費を負担する者（以下「支払責任者」という。）は、システム利用が認められた者の利用に係る経費を負担しなければならない。

2 前項の規定により支払責任者が負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(ネットワーク利用経費の負担)

第7条 ネットワーク利用が認められた者の負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(利用時間の制限等)

第8条 センター長は、システム及びネットワークの利用に関し、利用時間帯を制限し、又は指定することができる。

(機器の移動等の禁止)

第9条 センターの機器等に関し、次の各号に掲げる事項は禁止する。ただし、センター長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- (1) 機器の移動又は変更
- (2) ソフトウェアの変更、追加

(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、センターに関する諸規則に違反する者があるとき、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせるおそれのあるときは、その者の利用の承認を取消し又は利用を停止することができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター会議の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年9月12日から施行する。

案内図



〒790-8577 松山市文京町3
3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan
TEL 089-927-8803,8804・FAX 089-927-8805
<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>
2014.8発行